JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION

ANNUAL REPORT 2010

内閣府特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル
TEL：03-3459-1445　FAX：03-3459-1446
http://www.jla.gr.jp/

誇り高き、生命をつなぐ

日本ライフセービング協会は、東日本大震災の悲しみを記憶に刻み、
「人」「海」とのかけ橋となって、これからも水辺の事故ゼロを目指します。

目次

トップメッセージ ……3
ライフセービングとは ……4
日本ライフセービング協会 …6
組織概要 ……10
Section1 ……9
Section2 ……33
Section3 ……41

Top MESSAGE

トップメッセージ

Top Message

2011年３月11日　午後２時46分。

東北・東日本地域に大震災（大津波）が襲った。その犠牲・被災された一つひとつの生命に対し、国際ライフセービング連盟（ILS）加盟国の代表から心温まるメッセージを拝受した。そして全世界から届くメッセージと共に、あらゆる救援部隊が日本に入国し、被災地へ向かった。その迅速な行動に、日本人としてこの上なき安心感と、限りなき感謝を刻んだ。

警察庁公式発表（３月31日現在）によれば、死者・行方不明者は27,979名、被災避難者116,372、死者の９割が溺死である。

水の事故ゼロを目指すライフセービング界にとって、この事実に言葉を失いつつも、何ができるかを問いつづける日々に至る。65%の溺死者が60歳以上であった事実は、高齢化社会の続く我が国にとって深き課題である。

我が国の歴史は、地震・津波・火山・台風と甚大な自然災害を経験し、その災害経験を教訓にした防災意識を高めてきた。全ての日本人が義務教育過程で「避難訓練」を繰り返してきた。それはまさしく自然災害を回避することができない事実をもって、生き延びる、生き残る心得を「防災教育」にて実践してきたのである。

今回、報道（群馬大学・片田敏孝教授）によれば、子供とその親、そして教師から津波に対する意識調査を行い、通学路の避難経路を確認させ、自分達で地図を作り、中学生が小学生をケアしながら、自らに避難する術を蓄えさせていた。その実践の中で問題点を抽出し、地道なフィードバックを重ねることで、子供、親、教師の防災意識を高め、その結果、岩手県釜石市児童（在校生徒）の死者はゼロであった。これもまた自然災害は回避できない状況において、防災教育による意識・知識の地道な育みが犠牲者を限りなく減少させる重要な証明となった。

一方、私は震災直後、実際の救命支援の最前線に立ったが、諸外国から寄せられた驚愕と賛辞たる光景を目のあたりにした。それは、全てを奪われたショックのなかで、悲しみを耐え偲び、他者を思いやる（自身よりまだ辛い人がいるに違いない）精神と、少なき（むすび２つ）配給に、雪降る寒さの中で、冷静に列をなして待つ姿は、同じ国民（仲間）として涙し、誇りを感じたのである。

また、被災地を歩くなかで、唯一希望の光は子供達の声であり、笑顔であった。子供というのは、起きた事実は事実として、その悲しみを抱きしめながらも、笑顔を失わないという特徴を知った。まさに希望であった。

我々ライフセービング界は、世界中のあらゆる水辺の事故ゼロを目指すことで、「人」と「海（水辺）との架け橋にならなければならない使命と、全世界で発生した悲しい水辺の事故からの教訓を無駄にすることなく、我々はここに集い、情報を共有し、分析し、そして行動へ移して参りましょう。

本アニュアルレポートは、日々の地道な活動の記録（成果）である。

これら数値・実績を社会へ公開することで、水辺の事故ゼロの実現に向けた社会構築の一歩と理解している。

結びに、本震災により失われた尊い生命に対して、哀悼の意を表するとともに、被災された地域の復興と被災者の方々の安全と安心が、より早く訪れますことを祈念申し上げます。

2011年３月31日

日本ライフセービング協会
理事長　小峯　力

About LIFESAVING

ライフセービングとは

About LIFESAVING

「LIFESAVING（以下、ライフセービング）」とは、“人命救助”を表す言葉として一般的に理解されています。救急救命士の欧文表記は「Emergency Lifesaving Technician」、または「Emergency Medical Technician」であるため、正確に言い表すのであれば、“救命”と訳すのがよいのでしょう。

諸外国におけるライフセービングは、一次救命を本旨とした社会的活動であり、一般的には水辺の事故防止のための実践活動として認識されています。その活動にたずさわる存在は「LIFESAVER（以下、ライフセーバー）」と呼ばれ、社会的市民権を得ています。さらに、「LIFEGUARD（以下、ライフガード）」はプロフェッショナルな公務員として採用され、コーストガード（海上保安庁）、警察、消防といった公的救助組織と連携を図っています。

一方、わが国におけるライフセーバーは、有資格者を指すこともあります。

しかし、ライフセーバーは、ボランティア活動を基本とし、いわゆるプレホスピタルケア（病院前）の範囲において、自他の生命を尊重する社会貢献を展開するものであることから、誰でも参加できる活動です。たとえ泳げなかったり、身体的ハンディがあろうとも、社会奉仕と生命尊厳の精神に基づき、その活動は否定されるものではありません。

以上のように、ライフセービングは、「溺れた者を救う」という救助活動から、溺れない安心な環境をマネジメントすること、さらには日常生活の危機管理も含めて総合的に安全を提供できる活動として世界中で普及されています。

今日、日本では心肺停止状態の人を発見した場合、医療従事者でなくても、一般市民が自ら早期に体外式除細動器（AED）等を使用し心肺蘇生法を実施して人の生命を救う、バイスタンダーという概念の普及が叫ばれるようになりました。

まさに、そのバイスタンダーになり命を救う、さらには命を危険にさらさない（事前に守る）というライフセービング活動に大きな期待が寄せられています。

ライフセービングのポスター（オーストラリア）
We want lifesavers who can't swim.
「たとえ泳ぐことができなくてもライフセーバーになれる」
ライフセービング活動は、身体的ハンディのあるなしに関係なく、今ある機能を生かして、人を救い、守る可能性を否定しないというメッセージです。

International Life Saving federation

国際ライフセービング連盟

International Life Saving federation

ILS（International Life Saving federation：国際ライフセービング連盟）はヨーロッパの国々が中心となって、1878年に組織された国際連盟FIS（Federation International de Sauvetage aquatic）と、環太平洋の国々が中心となって、1971年に組織されたWLS（World Life Saving）が1993年に統一して設立されたライフセービングの唯一の国際連盟です。

加盟国は正会員・準会員・協力会員含め90カ国以上にのぼり、2年毎に開催される総会では、40万人といわれる水辺の事故を減らすための積極的な討議が行われています。2010年10月のRescue2010エジプト大会では、定例総会が開催されました。日本ライフセービング協会はJLSの日本代表機関の正会員としてアジア太平洋地区に属しており、2011年3月現在4名が組織入りし、ライフセービングを通じた国際貢献に努めています。

ILS専門委員会参加メンバー

JLA理事長／小峯 力
⇒教育担当委員会①
JLA救命部担当理事／中川儀英
⇒医事担当委員会②
JLA S級審判員／深山元良
⇒テクニカル&ルール担当委員会③
JLA国際広報事業委員長／相澤千春
⇒ILS理事 （アジア太平洋地区代表）④
公平性と多様性・特別委員会⑤

加盟・承認団体

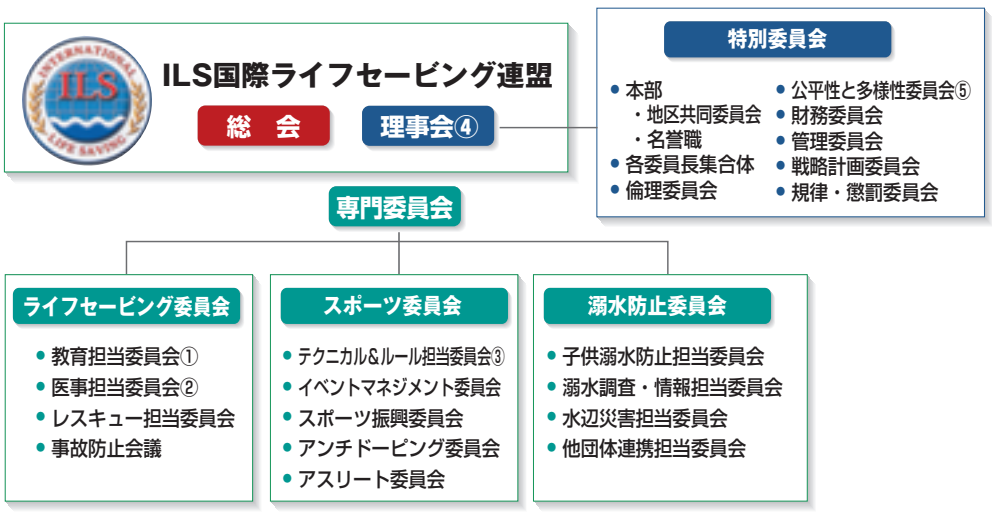
IOC（国際オリンピック委員会）
Sports Accord（旧国際スポーツ競技連盟連合）
ARISF（IOC認定国際スポーツ組織連盟）
IWGA（国際ワールドゲームズ協会）
CISM（国際軍人スポーツ評議会）

関連団体

WHO（世界保健機関）
ICRC（赤十字国際委員会）
IFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）

特別顧問

カール16世（スウェーデン国王）
モスタファ・マーサリム（イラン文部大臣）
チャールズ·ホーギー（元アイルランド首相）
ブライアン・マルルーニー（元カナダ首相）
デイブ・ウイリアムスMD（元宇宙飛行士）
ネルソン・マンデラ（元南アフリカ大統領）
ロバート·J·ホーク（元オーストラリア首相）
ジョン・メージャー（元イギリス首相）
マイケル・ロカルド（元フランス首相）



Japan Lifesaving Association

日本ライフセービング協会

Japan Lifesaving Association

水辺の事故ゼロを目指して

1991年に日本ライフガード協会と日本サーフライフセービング協会が統一し、「日本ライフセービング協会（初代理事長：金子邦親）」が設立されました。2001年に、これまでの任意団体としての役割を経て、内閣府特定非営利活動法人日本ライフセービング協会（理事長・小峯力）」として認証を受け、水辺の事故ゼロを目指し、「人と社会に変革をもたらす」法人として、「救命」「スポーツ」「教育」「環境」「福祉」（=JLAヒューマンチェーン）といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。

国際ライフセービング連盟の日本代表機関として国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の環境保全、安全指導、監視・救助を行うライフセービング活動の普及および発展等に関する事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することを目的としています。

これらを具体的に推進するため、総会・理事会・専門部・専門委員会・スーパーバイザー・支部・事務局といった組織体制を整え、全国のライフセーバーの活動サポートを行っています。また、ライフセービングのさらなる社会的認知の向上を目指した「JLAミッション」を掲げ、水辺の事故ゼロを目指して全国のメンバーとともにライフセービング活動の普及と発展に努めています。

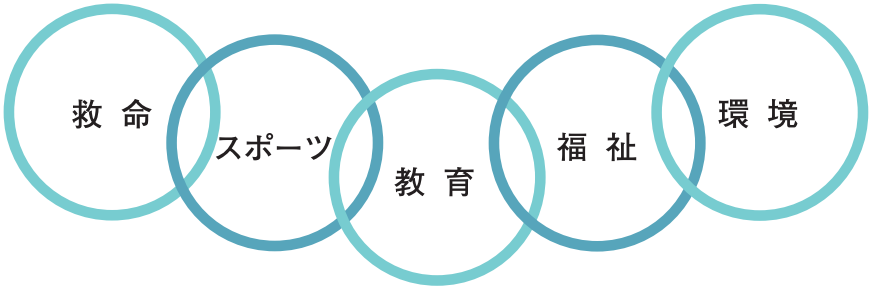
事業概要

- ライフセービング活動に関する資格認定事業
- 青少年・児童に対する水辺の安全、教育事業
- ライフセービング競技事業
- ライフセービング活動に関する広報・啓蒙活動事業
- ライフセービング活動における国際交流事業
- 環境保全活動事業

ヒューマンチェーン

救助者同士の手首を互いにつかみ（人間の鎖）、水没した溺者を捜索する方法です。

ライフセービング活動には「ライフセービングそのものを学び、活動していくこと」「ライフセービング活動によって獲得した生命の尊厳の精神をあらゆる分野に社会貢献していくこと」の二通りがあります。いずれも人間がテーマであり、人間が人間を救う・守ることを根底に、生命のあるものが生命を救う自然の摂理を崇めるという歴史の普遍性を獲得していく活動展開を表現したものです。



JLA第２ステージ　10年間の歩み

2001年	内閣府特定非営利活動法人化
2002年	法人化にともなう新会員制度スタート
2003年	JLAヒューマンチェーンJLAプロジェクト宣言 JLAロゴマークリニューアル
2004年	世界選手権イタリア大会参加 国際競技会（DHL8）開催 第1回ジュニア競技会開催 国際ルールに準拠した、競技規則改定
2005年	会員賠償責任付帯制度スタート 会員制度と資格制度の一部見直し 第1回学生リーダーズキャンプ開催
2006年	世界選手権イタリア大会参加 『LifeSaving』マガジン（舵社）創刊 JLAミッション宣言 国際競技会（三洋カップ）スタート
2007年	日豪パートナーシップ締結・調印 ウォータースポーツプロジェクト調印 ジュニア教育実態調査報告書発刊 心肺蘇生法教本（大修館書店）発刊 第1回高校生プログラム開催
2008年	JLA沖縄県支部・九州支部設立 サーフライフセービング教本（大修館書店）発刊 ジュニア教育指導指針発刊 審判マニュアル2008発刊 世界選手権ドイツ大会参加 ILS専門委員へ日本人4名が初めて就任
2009年	JLA北海道支部・中部支部設立
2010年	共同組織ウォーターセーフティニッポン調印 世界選手権エジプト大会参加総合8位 第1回全日本学生ライフセービングプール競技選手権大会開催 アニュアルレポート2009発刊　活動報告開示

JLA Mission

JLAミッション

Mission

水の事故による犠牲者をひとりでも少なくするための救助技術の向上や、ライフセービングの地域的振興、海浜などの有効利用による文化の向上と、生命尊厳を人間の中心におく教育の推進、安全思想の普及・啓発を、様々なプロジェクトを通じて実践・実現して行きます。

そしてライフセービングのさらなる社会認知に向けて、日本ライフセービング協会の組織をこれまで以上に成熟させ時代の隆盛をベースに組織改革を断行していくことが重要であるとの考えに基づき、9つのミッションを掲げています。

Mission1
国際連盟における日本代表機関としての信頼基盤構築
（国際貢献の強化）

Mission2
各財団、および団体とのコラボレーション拡大
（各事業展開強化）

Mission3
全国組織としての組織基盤の充実
支部の設置（会員拡大強化）

Mission4
一次救命教育団体としての社会的認知
（メディカルコントロール強化）

Mission5
資格認定団体としての認知
（教育とレスキューの統合、生命教育のジュニア指導強化）

Mission6
小学校・中学校・高等学校・大学におけるクラブ化
（地域クラブにつながる投資強化）

Mission7
「生命を救うスポーツ」普及・拡大・展開
（競技会のあり方、メディアリリース強化）

Mission8
ライフセーバーからライフガード認定制度
（半プロ化・年間雇用拡大の創出・強化）

Mission9
事務局体制、および財務基盤の安定化
（企業とのパイプ構築、および就労環境整備強化）

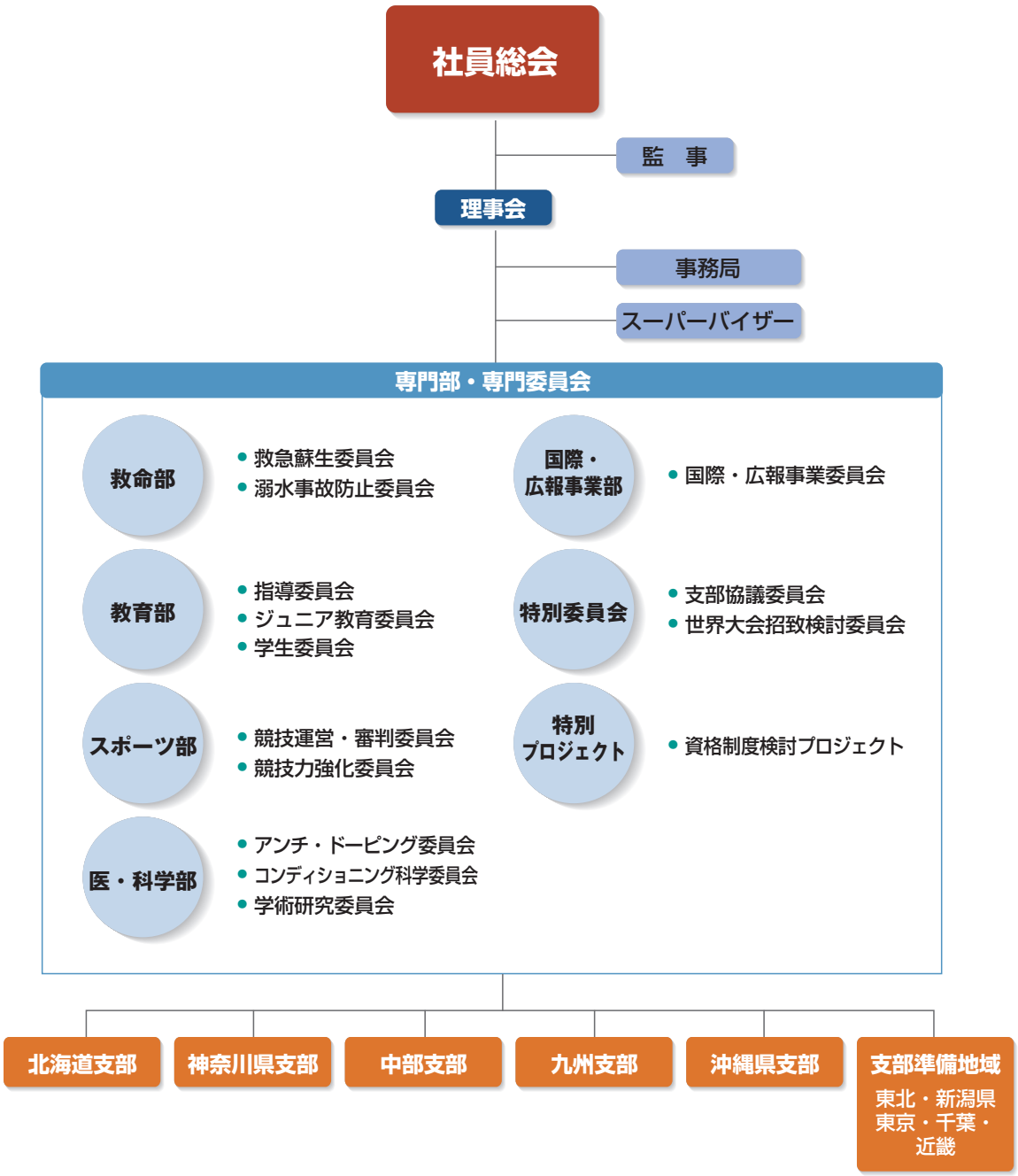
Section1

2010年度ハイライト

組織概要

Outline of organization

2010年度は、短期・中期プロジェクト対応の構築と、JLAの根幹がゆらぐことなく事業が遂行されるよう、スーパーバイザー制度を組織化しました。



専門部・専門委員会

ミッションを達成するために、専門委員会に分かれ各種事業を進めています。年3回の運営委員会では、理事会、スーパーバイザー、専門委員会、支部協議委員会のメンバーが一同に会し、事業の報告や計画を発表し、情報共有しながら連携を図っています。

救命部

救急蘇生委員会
ガイドライン2010の普及
重溺症例に対する救急処置の質的向上
CPRに関する医学的研究
溺水事故防止委員会
溺水事故防止に向けた調査研究
パトロールログ・レポートの集計・分析・課題抽出
全国海水浴場調査のまとめと公開
海水浴場リスク評価基準づくりに向けた情報収集

教育部

指導委員会
講習会の開催、運営
指導員の養成（新規指導員確保のシステムづくり）
指導員の研修（質の向上）
ジュニア教育委員会
ジュニア指導の統一化
学校教育（義務教育課程）への導入
ジュニア教育指導者資格の検討
学生委員会
学生リーダーの育成・学校クラブ（中学・高校・大学）の拡大

スポーツ部

競技運営・審判委員会
競技会の普及・拡大・展開
審判員の育成
競技力強化委員会
レスキューアスリートの育成
＜日本代表チームの強化＞ ＜JAPAN BLANDの確立＞ ＜各委員会との連携強化＞

医・科学部

アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピングに関する普及啓蒙活動
コンディショニング科学委員会
セルフコンディショニングに関する普及啓蒙活動
学術研究委員会
JLA所有の知的財産の管理と運用ルールづくりの検討
学術研究活動および研究発表・研究成果の公表方法についての検討

国際・広報事業部

国際・広報事業委員会
＜国際＞国際連盟におけるJLAの存在意義の明確化
＜国際＞国際連盟および海外からの情報収集および伝達
＜広報＞アニュアルレポートの発行・ホームページの改善
＜広報＞メディアリリースの強化／JLA BLANDの確立

特別委員会

支部協議委員会
会員拡大・支部設立、運営に関する協議・法人格などの検討
世界大会招致検討委員会
招致検討の判断となる情報収集

特別プロジェクト

資格制度検討プロジェクト
ILS国際資格との連携整備
新規ライフセーバー資格の検討

組織メンバー

Member of organization

■ 理事会

理 事 長

小峯　力（大学教授）
Tsutomu Komine

副理事長

山本 利春（大学教授）
Toshiharu Yamamoto

理　　事

中川 儀英（救命救急医）
Yoshihide Nakagawa
土志田 仁（会社経営）
Hitoshi Toshida
高野 絵美（会社経営）
Emi Kono
松本 貴行（高校教諭）
Takayuki Matsumoto
泉田 昌美（会社員）
Masami Izumida
森井 秀明（団体役員）
Hideaki Morii

監　　事

篠原　忍（税理士）
Shinobu Shinohara
小嶋 和也（弁護士）
Kazuya Kojima

■ スーパーバイザー

2010年度より、JLA事業におけるあらゆる場面で、根幹をゆるがすことなく適切な運営がなされているか、アドバイスや提案をするライフセービング有識者の組織化としてスーパーバイザー制度を実施。◆は任期付。

小峯　力
中見 隆男
足立 正俊
豊田 勝義
上野 真宏
中川 儀英 ◆
山本 利春 ◆
加藤 道夫 ◆

■ 事務局

中山　昭　：総務部長
川地 政夫　：事業部長
三浦 慶子　：事務局員
佐藤 洋二郎：事務局員

■ 専門部・専門委員会

★委員長　☆副委員長

●救命部／担当理事：中川 儀英

救急蘇生委員会
中川 儀英★

溺水事故防止委員会
石川 仁憲★
堀口 敬洋
風間 隆宏

●教育部／担当理事：松本 貴行・山本 利春

指導委員会委員会
上野 真宏★
岡澤 悟一☆
阿部 健☆

ジュニア教育委員会
丸田 重夫★
藤井 正弘
植木 将人
森　洋行
岡田 早織

学生委員会
泉田 昌美★
服部 優大（学生代表）
松浦 珠実（学生副代表）
小林 祐輔（学生主務）
藤井 香織（学生教育部長）
友廣 将二（学生教育副部長）
槻田 ちひろ（学生競技部長）
小野寺 佑介（学生競技副部長）
竹花 佐和子（学生広報部長）
鈴木 由佳（学生広報副部長）

●**スポーツ部**／担当理事：土志田 仁・泉田 昌美

競技運営・審判委員会

塚本 隆之★
橘川 克巳☆
飯塚 哲也☆
泉田 昌美
渡辺 智美
池谷　薫
吉田 健博
中島 重之
藤田 善照
林　昌広

競技力強化委員会

遠藤大哉★
入谷 拓哉
青木 克浩
飯沼 誠司
鈴木 一也
佐藤 文机子
遊佐 雅美

●**医・科学部**／担当理事：山本 利春

アンチ・ドーピング委員会

小峯　力★
小粥 智浩
砂川 憲彦
笠原 政志

コンディショニング科学委員会

小粥 智浩★
砂川 憲彦
笠原 政志

学術研究委員会

山本 利春★
小峯　力
中川 儀英
石川 仁憲
小粥 智浩
笠原 政志

●**国際・広報事業部**／担当理事：高野 絵美

国際・広報事業委員会

相澤 千春★
堤　容子
西嶋 智美
宮部 周作

●**特別委員会**／担当理事：土志田 仁・高野 絵美

支部協議委員会

森井 秀明★
加藤 道夫：神奈川県支部
岸　浩明：北海道支部
諸節 智章：中部支部
井藤 秀晃：中部支部
藤田 和人：九州支部
豊見山 明久：沖縄県支部
矢貫 卓博☆：沖縄県支部
池谷　薫：新潟県地域設立準備
松原 浩一：東北地域設立準備
田村 浩志：東京地域設立準備
鍛冶 有登：近畿地域設立準備
田代 宗司：千葉地域設立準備

世界大会招致検討委員会

土志田 仁
高野 絵美
上野 真宏
相澤 千春

●**特別プロジェクト**／担当理事：小峯 力

資格制度検討プロジェクト

山本 利春
松本 貴行
上野 真宏
丸田 重夫
泉田 昌美

登録クラブ

Member

（平成23年3月現在）

支部（5支部）

・北海道支部
・神奈川県支部
（NPO法人神奈川県ライフセービング連盟）
・中部支部
・九州支部
・沖縄県支部

地域LSクラブ（82クラブ）

北は北海道から南は沖縄まで、各地で活動するJLA登録クラブです。

【北海道】3
・石狩ライフセービングクラブ
・小樽ライフセービングクラブ
・札幌ライフセービングクラブ

【青森県】1
・つがるライフセービングクラブ

【岩手県】4
・大船渡ライフセービングクラブ
・釜石ライフセービングクラブ
・盛岡ライフセービングクラブ
・高田ライフセービングクラブ

【秋田県】1
・秋田ライフセービングクラブ

【東京都】8
・式根島ライフセービングクラブ
・神津島ライフセービングクラブ
・新島ライフセービングクラブ
・三宅島ライフセービングクラブ
・三多摩ライフセービングクラブ
・スポーツプレックスライフセービングクラブ
・東京消防庁ライフセービングクラブ
・BACK WASH サーフライフセービングクラブ

【神奈川県】15
・横浜海の公園ライフセービングクラブ
・NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ
・三浦海岸サーフライフセービングクラブ
・湯河原ライフセービングクラブ
・茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
・大磯ライフセービングクラブ
・湘南ひらつかライフセービングクラブ
・二宮ライフセービングクラブ
・辻堂ライフセービングクラブ
・鎌倉ライフガード
・サーフ90鎌倉ライフセービングクラブ
・サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ
・葉山ライフセービングクラブ
・NPO法人バディ冒険団
・小田原ライフセービングクラブ

【千葉県】10
・NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
・銚子ライフセービングクラブ
・白浜ライフセービングクラブ
・岩井ライフセービングクラブ
・鴨川ライフセービングクラブ
・和田浦ライフセービングクラブ
・飯岡ライフセービングクラブ
・勝浦ライフセービングクラブ
・館山サーフライフセービングクラブ
・御宿ライフセービングクラブ

【茨城県】4
・大洗サーフライフセービングクラブ
・大竹サーフライフセービングクラブ
・NPO法人鹿嶋ライフガードチーム
・波崎サーフライフセービングクラブ

【新潟県】2
・柏崎ライフセービングクラブ
・新潟青山ライフセービングクラブ

【福井県】1
・若狭和田ライフセービングクラブ

【愛知県】1
・愛知ライフセービングクラブ

【静岡県】10
・今井浜サーフライフセービングクラブ
・NPO法人下田ライフセービングクラブ
・熱川ライフセービングクラブ
・沼津ライフセービングクラブ
・西伊豆ライフセービングクラブ
・用宗ライフセービングクラブ
・榛原ライフセービングクラブ
・土肥ライフセービングクラブ
・御浜ライフセービングクラブ
・相良サーフライフセービングクラブ

【大阪府】2
・NPO法人大阪ライフセービングクラブ
・大阪体育大学シニアライフセービングクラブ

【兵庫県】1
・NPO法人神戸ライフセービングクラブ

【京都府】1
・NPO法人京都ライフセービング

【広島県】2
・NPO法人広島ライフセービング
・安芸ライフセービングクラブ

【鳥取県】2
・NPO法人皆生ライフセービングクラブ
・岩美ライフセービングクラブ

【島根県】2
・キララライフセービングクラブ
・浜田ライフセービングクラブ

【岡山県】1
・岡山ライフセービングクラブ

【山口県】1
・山口ライフセービングクラブ

【福岡県】3
・宗像ライフセービングクラブ
・福岡ライフセービングクラブ
・新宮ライフセービングクラブ

【大分県】1
・大分ライフセービングクラブ

【宮崎県】1
・NPO法人宮崎ライフセービングクラブ

【鹿児島県】1
・かごしま磯ライフセービングクラブ

【沖縄県】4
・万座ライフガードチーム
・沖縄本島ライフセービングクラブ
・北谷公園サンセットビーチライフセービングクラブ
・今帰仁ライフセービングクラブ

学校LSクラブ（47クラブ）

大学を中心に高校から専門学校まで、JLAに登録している教育機関主体のクラブです。

【東京都】26
・日本女子体育大学ライフセービングクラブ
・拓殖大学ライフセービングクラブ
・専修大学サーフライフセービングクラブ
・日本体育大学ライフセービングクラブ
・東京女子体育大学ライフセービングクラブ
・国士舘大学ライフセービングクラブ
・早稲田大学ライフセービングクラブ
・杏林大学ライフセービングクラブ
・中央大学ライフセービングクラブ
・東洋大学サーフライフセービングクラブ
・成蹊大学ライフセービングクラブ
・法政大学サーフライフセービングクラブ
・実践女子大学ライフセービングクラブ
・日本大学ライフセービングクラブ
・日本大学サーフライフセービングクラブ
・國學院大學ライフセービングクラブ
・東京海洋大学ライフセービングクラブ
・玉川大学ライフセービングクラブ
・明治大学サーフライフセービングクラブ
・青山学院大学ライフセービングクラブ
・東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ
・東京スポーツ・レクリエーション専門学校ライフセービングクラブ
・成城学園ライフセービングクラブ
・十文字高等学校ライフセービングクラブ
・昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ
・帝京大学ライフセービングクラブ

【神奈川県】3
・東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
・神奈川大学ライフセービングクラブ
・文教大学ライフセービングクラブ

【埼玉県】1
・武蔵丘短期大学ライフセービングクラブ

【千葉県】2
・国際武道大学ライフセービングクラブ
・順天堂大学ライフセービングクラブ

【茨城県】3
・筑波大学ライフセービングクラブ
・流通経済大学ライフセービングクラブ
・茨城大学サーフライフセービングクラブ

【新潟県】2
・新潟産業大学ライフセービングクラブ
・新潟工科大学ライフセービングクラブ

【福井県】1
・福井県立大学ライフセービングクラブ

【愛知県】2
・中京大学ライフセービングクラブ
・日本福祉大学ライフセービングクラブ

【静岡県】1
・東海大学海洋学部ライフセービングクラブ

【大阪府】1
・大阪体育大学ライフセービングクラブ

【京都府】1
・立命館大学ライフセービングクラブ

【広島県】2
・海上保安大学校ライフセービングクラブ
・広島国際大学ライフセービングクラブ

【鳥取県】1
・鳥取大学発ライフセービングクラブ

【沖縄県】1
・琉球大学ライフセービングクラブ

パトロールログ&
レスキューレポート2010　トピックス

Patrol & Rescue Report 2010 Topics

JLAに登録のある全国の監視活動エリアより提出いただいた報告書より、
集計可能な134カ所を対象に集計した結果です。
詳細はsection3データ集をご覧下さい。

延べパトロール ライフセーバー **29,585人**

延べパトロール 活動日数 **5,294日**

総レスキュー **1,052件**

ライフセーバーが関ったレスキューの内、
もしかしたら大きな事故につながったかもしれない
未然の対処件数として、以下の安全移送件数が多い事は、
最大の特徴である。

安全移送件数 **964件**

安全移送とは自力で浮く事は出来るが
自ら安全な位置や浜に移動する事ができない者の移送等

軽溺者件数 **76件**

軽溺者とは意識はあるが自力で浮く事が困難な溺者の救助

重溺者件数 **12件**

重溺者とは意識不明の溺者の救助

ファーストエイド **14,903件**

迷子 **953件**

活動の海岸

[岡山県]

玉野市	渋川海水浴場

[広島県]

呉市	県民の浜海水浴場
	狩留賀海浜公園海水浴場
安芸郡	ベイサイドビーチ坂

[山口県]

岩国市	潮風公園
	みなとオアシスゆう
萩市	菊ヶ浜海水浴場
光市	虹ヶ浜海水浴場

[鳥取県]

米子市	皆生温泉海水浴場
岩美郡	浦富海水浴場
鳥取市	賀露みなと海水浴場

[島根県]

出雲市	キララビーチ
浜田市	石見海浜公園

[福岡県]

宗像市	江口海水浴場
糟屋郡	新宮海岸

[大分県]

大分市	田ノ浦ビーチ

[宮崎県]

宮崎市	青島海水浴場
	サンビーチーッ葉海水浴場

[沖縄県]

国頭郡	万座ビーチ
	今帰仁村民の浜ビーチ
中頭郡	北谷公園サンセットビーチ
島尻郡	古座間味ビーチ
	阿真ビーチ
	北浜ビーチ

[京都府]

宮津市	天橋立（文殊／府中）

[大阪府]

泉南郡	淡輪海水浴場

[兵庫県]

神戸市	須磨海水浴場
	アジュール舞子海水浴場

[和歌山県]

和歌山市	片男波海水浴場
西牟婁郡	白良浜海水浴場

[新潟県]

柏崎市	米山海水浴場
	笠島海水浴場
	薬師堂海水浴場
	鯨波海水浴場
	東の輪海水浴場
	番神海水浴場
	中央海水浴場
新潟市	青山海岸海水浴場

[福井県]

小浜市	人魚浜海水浴場
	鯉川海水浴場
大飯郡	若狭和田海水浴場

[静岡県]

賀茂郡	熱川温泉You湯海水浴場
	今井浜海水浴場
	河津浜海水浴場
	弓ヶ浜海水浴場
	大浜海水浴場
	乗浜海水浴場
	クリスタルビーチ
	黄金崎海水浴場
下田市	白浜中央海水浴場
	白浜大浜海水浴場
	多々戸浜海水浴場
	入田浜海水浴場
	舞磯浜海水浴場
	吉佐美大浜海水浴場
伊豆市	土肥海水浴場
	小土肥海水浴場
沼津市	御浜海水浴場
	島郷海水浴場
	大瀬崎海水浴場
	千本浜公園海水浴場
	らららサンビーチ海水浴場
牧之原市	静波海水浴場
	相良サンビーチ
静岡市	用宗海水浴場
	三保真崎海水浴場

[愛知県]

知多郡	内海海水浴場
知多市	新舞子海水浴場
田原市	太平洋ロングビーチ
	仁崎海水浴場
	白谷海水浴場
	伊良湖海水浴場

[三重県]

志摩市	阿児の松原海水浴場

[北海道]

小樽市	おたるドリームビーチ サンセットビーチ銭函
石狩市	あそビーチ石狩

[青森県]

津軽市	マグアビーチ

[秋田県]

秋田市	浜田浜海水浴場

[岩手県]

大船渡市	吉浜海水浴場
釜石市	根濱海水浴場

[神奈川県]

横浜市	横浜海の公園
三浦市	三浦海岸海水浴場
三浦郡	一色海水浴場 森戸海水浴場 大浜長者ヶ崎海水浴場
逗子市	逗子海水浴場
鎌倉市	由比ガ浜海水浴場 材木座海水浴場 腰越海水浴場 七里が浜海岸
藤沢市	片瀬西浜海水浴場 片瀬東浜海水浴場 鵠沼海水浴場 江の島岩屋海水浴場 辻堂海水浴場
茅ヶ崎市	サザンビーチ茅ヶ崎 茅ヶ崎ヘッドランド
平塚市	湘南ひらつかビーチパーク
大磯町	大磯海水浴場
二宮町	袖ヶ浦海水浴場
湯河原町	吉浜海水浴場
小田原市	小田原御幸ヶ浜

[茨城県]

茨城郡	大洗サンビーチ
鉾田市	大竹海岸鉾田海水浴場
鹿嶋市	下津海水浴場 平井海水浴場
神栖市	波崎海水浴場 日川浜海水浴場

[東京都]

新島村	前浜第一海水浴場 前浜第二海水浴場 前浜第三海水浴場 前浜第四海水浴場 羽伏浦海水浴場 間々下海水浴場 渡浮根海水浴場 若郷前浜海水浴場
式根島	泊港海水浴場 大浦海水浴場 中の浦海水浴場 石白川海水浴場
神津島村	前浜海水浴場 長浜海水浴場 沢尻海水浴場 多幸湾海水浴場 赤崎海水浴場
三宅島村	大久保浜海水浴場 錆ヶ浜海水浴場 長太郎池海水浴場

富津市	富津海水浴場 大貫中央海水浴場 津浜海水浴場 上総湊海水浴場 新舞子海水浴場
館山市	船形海水浴場 北条海水浴場 新井海水浴場 沖ノ島海水浴場 坂田海水浴場 相浜海水浴場 波左間海水浴場 那古海水浴場

[千葉県]

銚子市	海鹿島海水浴場 銚子マリーナ 長崎海水浴場
旭市	飯岡海水浴場 矢指ヶ浦海水浴場
山武郡	堀川海水浴場 木戸海水浴場 屋形海水浴場 殿下海水浴場 中下海水浴場 南浜海水浴場 小松海水浴場 白幡海水浴場 本須賀海水浴場 粟生海水浴場 片貝海水浴場 不動堂海水浴場 真亀海水浴場 作田海水浴場
夷隅郡	岩和田海水浴場 御宿中央海水浴場 浜海水浴場
勝浦市	勝浦中央海水浴場 豊浜海水浴場 串浜海水浴場 鵜原海水浴場 守谷海水浴場 興津海水浴場
鴨川市	前原海水浴場 太海海水浴場 江見海水浴場 内浦第一海水浴場 内浦第二海水浴場 城崎海水浴場
南房総市	和田浦海水浴場 花園海水浴場 根本海水浴場 名倉海水浴場 塩浦海水浴場 豊岡海水浴場 原岡海水浴場 多々良北海水浴場 岩井海水浴場
安房郡	勝山海水浴場 大六海水浴場 鱚ヶ浦海水浴場 保田中央海水浴場 元名海水浴場

年間事業トピックス—2010年度JLA年間事業

Topics

4月

17日（土）　西日本学生リーダーズミーティング
18日（日）　西日本学生リーダーズミーティング
18日（日）　宮古島トライアスロン大会ライフガード（沖縄県支部）
24日（土）　C級審判員養成講習会
30日（金）　第1回理事会

5月

15日（土）　第23回 全日本プール競技選手権
　　第2回理事会
16日（日）　第23回 全日本プール競技選手権
22日（土）　通常社員総会／第3回理事会
23日（日）　第12回神奈川県選手権（神奈川県支部）
29日（土）　合同浜説明会／高校生プログラム
30日（日）　合同浜説明会／高校生競技会

通常社員総会

全日本プール競技選手権

西日本学生リーダーズミーティング

高校生競技会

6月

5日（土）　第23回 全日本種目別選手権
6日（日）　第23回 全日本種目別選手権
12日（土）　ジュニア指導者研修会
13日（日）　ジュニア指導者研修会
25日（金）　第4回理事会
27日（日）　日本代表強化合宿

7月

10日（土）　日本代表強化合宿
11日（日）　日本代表強化合宿
14日（水）　渡嘉敷島ジュニアキャンプ
（沖縄県支部）～16日（金）
17日（土）　第1回運営委員会
21日（水）　岩井臨海学園
北区～8/10（火）
千代田区～25日（日）

全日本種目別選手権

運営委員会

ジュニア指導者研修会

岩井臨海学園

8月

7日（土）　日本代表強化合宿
22日（日）　第7回ジュニア競技会
（with 第2回 JLA classic）
29日（日）　C級審判員養成講習会（北海道支部）

ジュニア競技会

JLA classic

9月

4日（土）　第11回オーシャンサーフチャレンジ
in白浜2010
5日（日）　第5回
三洋物産インターナショナルカップ2010
5日（日）　第2回海の運動会（北海道支部）
10日（金）　C級審判員養成講習会
11日（土）　第35回 全日本選手権・西日本地区予選会
12日（日）　C級審判員養成講習会
18日（土）　第35回 全日本選手権・東日本地区予選会
19日（日）　第35回 全日本選手権・東日本地区予選会
20日（月祝）第35回 全日本選手権・東日本地区予選会
23日（木祝）日本代表強化合宿
25日（土）　第25回 全日本学生選手権／第5回理事会
26日（日）　第25回 全日本学生選手権

オーシャンサーフチャレンジ

三洋物産インターナショナルカップ

10月

2日（土）　C級審判員養成講習会
2日（土）　日本代表世界大会（エジプト）～11日
3日（日）　第3回九州競技会（九州支部）
23日（土）　第35回 全日本選手権
24日（日）　第35回 全日本選手権
伊是名トライアスロン大会ライフガード（沖縄支部）
29日（金）　第6回理事会

11月

7日（日）　第8回神奈川県プール選手権（神奈川県支部）
13日（土）　第2回運営委員会
14日（日）　C級審判員養成講習会
27日（土）　強化指定選手強化合宿
28日（日）　強化指定選手強化合宿
C級審判員養成講習会

日本代表世界大会

運営委員会

全日本選手権

12月

4日（土）　C級審判員養成講習会
5日（日）　C級審判員養成講習会
11日（土）　納会／第7回理事会／強化指定選手強化合宿
19日（日）　高校生プログラム

1月

10日（月祝）指導員研修会
15日（土）　指導員研修会
16日（日）　C級審判員養成講習会／審判員研修会
17日（月）　指導員研修会
21日（金）　第8回理事会
22日（土）　C級審判員養成講習会／審判員研修会
23日（日）　指導員研修会
28日（金）　指導員研修会
29日（土）　指導員研修会
29日（土）　日本代表海外遠征（ニュージーランド）～2/7

ライフセーバーアワード

指導員研修会

納会

審判員研修会

2月

5日（土）　学生リーダーズキャンプ
6日（日）　学生リーダーズキャンプ
　　C級審判員養成講習会（中部支部）
11日（金祝）第2回 全日本学生プール競技選手権
　　高校生記録会／第9回理事会
12日（土）　第2回 全日本学生プール競技選手権
13日（日）　ジュニア指導者研修会
27日（日）　強化指定選手強化合宿

3月

25日（金）　第10回理事会

学生リーダーズキャンプ

ジュニア指導者研修会

協力事業

1. 青少年育成3団体協働事業「ウォータースポーツプロジェクト」への協力

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G財団）、日本トライアスロン連合（JTU）、日本ライフセービング協会の3団体協働によるプロジェクトに参画し「青少年の健全育成、自然体験を通じた安全教育」を推進した。全国に480ヶ所あるB&G財団海洋センターの会場候補から過去に実施のある箇所で「大自然とスポーツで親子の絆、光る汗」と題した体験教室を開催し、開催地周辺の地域ライフセービングクラブがそれに協力した。また、ウォータースポーツの普及を図るため「ウォータースポーツ南日本大会」と「ウォータースポーツ北日本大会」の開催へ協力した。

	開催日	B&G海洋センター所在地	協力クラブ	参加人数
1	9月11日	北海道　室蘭市	小樽LSC	30名
2	6月27日	秋田県　にかほ市象潟	秋田LSC	21名
3	8月 8日	石川県　七尾市	全国大会	88名
4	8月 9日	新潟県　佐渡市羽茂	柏崎LSC	31名
5	9月 5日	岐阜県　中津川市	愛知LSC	12名
6	6月20日	兵庫県　豊岡市竹野	岩見LSC	22名
7	7月25日	鳥取県　伯耆町岸本	皆生LSC	22名
8	7月10日	愛媛県　松山市中島	*	30名
9	7月19日	徳島県連協	*	21名
10	8月 8日	鹿児島県　大島郡天城町	全国大会	100名

2. 「Water Safety NIPPON（水辺の事故ゼロ運動推進協議会）」への協力

日本における「子どもたちの健やかな成長と水の事故ゼロ」を目標に、行政・団体・企業・マスコミ・ボランティア・個人など様々な団体等が協力し「水の事故ゼロ運動」を全国で推進する官民共同体の組織設立に参画し、その運動に協力した。発起団体は以下の通り。

・日本財団　　会長　笹川陽平
・海洋政策研究財団　　会長　秋山昌廣
・日本セーリング連盟　　会長　山崎達光
・日本カヌー連盟　　会長　福田康夫
・日本トライアスロン連合　　会長　岩城光英
・B&G財団　　会長　梶田　功
・日本ライフセービング協会　理事長　小峯　力

公式・公認競技会

公式競技会

第23回 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日：2010年5月15日(土)·16日(日)
開催場所：横浜国際プール
(神奈川県横浜市)
参加人数：42チーム・528名
後　　援：文部科学省　神奈川県
横浜市
(財)日本水泳連盟
日本赤十字社
神奈川県水泳連盟
協　　賛：レールダルメディカルジャパン(株)
(株)三洋物産／(株)三洋販売
協　　力：(有)吉田三郎商店
日本ライフセービング協会神奈川県支部

第23回 全日本ライフセービング種目別選手権大会

開催月日：2010年6月5日(土)・6日(日)
開催場所：下田白浜大浜海岸
(静岡県下田市)
参加人数：51チーム・563名
後　　援：国土交通省
海上保安庁
静岡県　下田市
海上保安庁
下田海上保安部
下田教育委員会
下田市観光協会
協　　力：伊豆白浜観光協会
原田区
伊豆急不動産(株)
(有)吉田三郎商店
国際武道大学トレーナーチーム
NPO法人下田ライフセービングクラブ
日本ライフセービング協会中部支部

第7回ジュニア・ライフセービング競技会 ～with第2回JLA classic～

開催月日：2010年8月22日(日)
開催場所：片瀬東浜海岸
(神奈川県藤沢市)
参加人数：25チーム・238名
後　　援：藤沢市　藤沢市教育委員会
ウォーターセーフティーニッポン
(社)藤沢市観光協会
江の島海水浴場営業組合
助　　成：スポーツ振興くじ助成事業
協　　力：日本製粉(株)
日本ライフセービング協会神奈川県支部
NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ

第5回 三洋物産インターナショナルライフセービングカップ

開催月日：2010年9月5日(日)
開催場所：白良浜海水浴場
(和歌山県白浜町)
参加人数：7カ国・91名
後　　援：和歌山県　白浜町　白浜町議会
白浜町商工会　白浜観光協会
白浜温泉旅館協同組合
日刊スポーツ新聞社
(株)BS朝日
特別協賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
協　　力：サントリー食品(株)
(株)日本航空

第35回 全日本ライフセービング選手権大会

西日本地区予選会

開催月日：2010年9月11日(土)
開催場所：石地海水浴場（新潟県柏崎市）
参加人数：11チーム・134名

東日本地区予選会

開催月日：2010年9月18日(土)・
19日(日)・20日(月祝)
開催場所：御宿海岸（千葉県御宿町）
参加人数：42チーム・976名

本選

開催月日：2010年10月23日(土)·24日(日)
開催場所：片瀬西浜海岸
(神奈川県藤沢市)
参加人数：53チーム・1110名
後　　援：文部科学省
国土交通省
総務省消防庁
海上保安庁
新潟県
千葉県
神奈川県　柏崎市　御宿町
藤沢市
日本赤十字社
(財)日本水泳連盟
オーストラリア大使館
豪日交流基金
朝日新聞社
日刊スポーツ新聞社
特別協賛：第一三共(株)
協　　賛：レールダルメディカルジャパン(株)
(株)オッシュマンズ·ジャパン
協　　力：湘南海上保安署
(財)かながわ海岸美化財団
(社)藤沢市観光協会
江ノ島電鉄(株)
(株)櫻井興業GUARD事業部
(株)湘南なぎさパーク
(有)吉田三郎商店
(株)湘南ライセンス
鵠沼サーフショップ組合
鵠沼ビーチクリーンクラブ
日本サーフィン連盟湘南藤沢支部
柏崎観光協会
(財)柏崎市観光レクリエーション振興公社
西山町観光協会
(一社)御宿町観光協会
国際武道大学トレーナーチーム
柏崎ライフセービングクラブ
NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ
日本ライフセービング協会
神奈川県支部

第25回 全日本学生ライフセービング選手権大会

開催月日：2010年9月25日(土)·26日(日)
開催場所：御宿海岸（千葉県御宿町）
参加人数：44チーム・598名
後　　援：文部科学省
国土交通省
総務省消防庁
海上保安庁
千葉県　千葉県教育委員会

御宿町　御宿町観光協会
御宿町教育委員会
(財)ちば国際コンベンションビューロー

協　　賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
(株)オッシュマンズ･ジャパン

協　　力：勝浦海上保安署
(有)吉田三郎商店
国際武道大学トレーナーチーム
NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
御宿ライフセービングクラブ

第2回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日：2011年2月11日(金祝)･12日(土)
開催場所：古橋廣之進記念浜松市総合水泳場 ToBiO（静岡県浜松市）
参加人数：36チーム・530名
後　　援：静岡県
静岡県教育委員会　浜松市
(財)日本水泳連盟
協　　賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
協　　力：浜松ホテル旅館協同組合
(有)吉田三郎商店
日本ライフセービング協会中部支部

公認競技会

第12回 神奈川県ライフセービング選手権大会

開催月日：2010年5月23日（日）
開催場所：大磯海岸（神奈川県大磯町）
参加人数：35チーム・362名
主　　催：特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング連盟
後　　援：神奈川県
神奈川県教育委員会　大磯町
大磯町教育委員会
ハワイ州ライフガード協会
日本ライフセービング協会
特別協賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
協　　賛：GUARD SHOP
((株)櫻井興業GUARD事業部)
江ノ島アイランドスパ
協　　力：大磯町消防本部
大磯ライフセービングクラブ

第11回オーシャンサーフチャレンジin白浜2010

開催月日：2010年9月4日（土）
開催場所：白良浜海水浴場
（和歌山県白浜町）
参加人数：11チーム・80名
主　　催：オーシャンサーフチャレンジin白浜2010 実行委員会
後　　援：和歌山県
日本ライフセービング協会
協　　賛：白浜町　白浜観光協会
白浜温泉旅館協同組合
白浜町商工会
(株)三洋物産／(株)三洋販売
協　　力：白浜町議会
(有)吉田三郎商店
NPO法人大阪ライフセービングクラブ
NPO法人神戸ライフセービングクラブ
NPO法人京都ライフセービング
大阪体育大学ライフセービングクラブ

第6回 ライフセービングチャンピオンシップスin島根

開催月日：2010年9月19日(日)
開催場所：島根県立石見海浜公園
（島根県浜田市）
参加人数：7チーム・48名
主　　催：ライフセービングチャンピオンシップスin島根　実行委員会
主　　管：浜田ライフセービングクラブ
後　　援：島根県　浜田市
浜田市教育委員会
浜田海上保安部
浜田警察署
浜田市消防本部
JFしまね
日本ライフセービング協会
協　　賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
国民宿舎千畳苑
協　　力：NPO法人広島ライフセービング
キララライフセービングクラブ
(株)ISP

第8回 千葉県ライフセービング競技大会

開催月日：2010年10月31日（日）
開催場所：北条海岸（千葉県館山市）
参加人数：26チーム・342名
主　　催：第8回千葉県ライフセービング競技大会 実行委員会
主　　管：館山サーフライフセービングクラブ
後　　援：千葉県　千葉県教育委員会
館山市　館山市教育委員会
(一社)館山市観光協会
(財)ちば国際コンベンションビューロー
(社)千葉県観光協会
千葉日報社
千葉テレビ放送(株)
日本ライフセービング協会
協　　賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
(株)サングロウ
(株)カワサキスポーツサービス
協　　力：NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
国際武道大学トレーナーチーム

第8回 神奈川県ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日：2010年11月7日（日）
開催場所：さがみはらグリーンプール
（神奈川県相模原市）
参加人数：43チーム・576名
主催：特定非営利活動法人
神奈川県ライフセービング連盟
後　　援：神奈川県　神奈川県教育委員会
相模原市　相模原市教育委員会
神奈川県水泳連盟
ハワイ州ライフガード協会
日本ライフセービング協会
特別協賛：(株)三洋物産／(株)三洋販売
協　　賛：GUARD SHOP
((株)櫻井興業GUARD事業部)
協　　力：相模原市水泳協会

資格講習会開催・発行数

■ ライフセーバー資格

ベーシック　サーフ　ライフセーバー資格

講習日程	主催	
8月2日～8月6日	日本ライフセービング協会 （和歌山県　白良浜海岸）	
7月10,11,17, 18,19日	日本ライフセービング協会北海道支部 （北海道　銭函ヨットハーバー）	
5月18,21,24, 25,28日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　鵠沼海岸）	
6月12,13,19, 26,27日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　鵠沼海岸）	
6月13,19,25, 26,27日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　鵠沼海岸）	
10月2日 ～10月16日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　鵠沼海岸）	
6月26日 7月3,4,10,11日	日本ライフセービング協会中部支部 （静岡県　島郷海水浴場）	
6月4日～13日	日本ライフセービング協会九州支部 （福岡県　津屋崎海岸）	
9月6,7,8, 14,15日	日本ライフセービング協会九州支部 （福岡県　津屋崎海岸）	
	以上　JLA本部及び支部主催小計	9カ所
	他、登録クラブ主催小計	38カ所
	開催合計	47カ所

アドバンス　サーフ　ライフセーバー資格

講習日程	主催団体	
8月27日～8月30日	日本ライフセービング協会 （東京都　新島）	
9月23日～9月26日	日本ライフセービング協会　北海道支部 （北海道銭函海岸）	
4月3,4,10,11日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　鵠沼海岸）	
11月20,23, 27,28日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　鵠沼海岸）	
	以上　JLA本部及び支部主催小計	4カ所
	他、登録クラブ主催小計	10カ所
	開催合計	14カ所

CPR（心肺蘇生法）

講習日程	主催	
4月29日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
5月09日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
5月22日	日本ライフセービング協会（アウトドアフィットネス協会） （神奈川県　横浜市スポーツ医科学センター）	
5月23日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
6月13日	日本ライフセービング協会　B&G財団 （沖縄県　マリンピアザオキナワ）	
6月20日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
9月04日	日本ライフセービング協会　九州支部 （大分県　田ノ浦ビーチ事務所）	
10月30日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京スポーツ・レクリエーション専門学校）	
11月26日	日本ライフセービング協会（ヒューマンアカデミー） （神奈川県　ヒューマンアカデミー横浜校）	
11月27日	日本ライフセービング協会（アウトドアフィットネス協会） （神奈川県　横浜市スポーツ医科学センター）	
11月28日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
12月05日	日本ライフセービング協会（日本水泳連盟） （東京都　国立スポーツ科学センター）	
12月12日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
02月15日	日本ライフセービング協会（ものつくり大学） （埼玉県　ものつくり大学）	
02月20日	日本ライフセービング協会 （東京都　東京メディカル・スポーツ専門学校）	
03月06日	日本ライフセービング協会　神奈川県支部 （神奈川県　サーフビレッジ）	
	以上　JLA本部及び支部主催小計	16カ所
	インストラクター主催小計	8カ所
	他、登録クラブ主催小計	22カ所
	開催合計	46カ所

その他資格

種別	主催	
IRBクルー資格	登録クラブ主催	2カ所
IRBドライバー資格	登録クラブ主催	2カ所
ウォーターライフセーバー資格	登録クラブ主催	1カ所

更新講習

種別	主催
サーフおよびウォーター資格更新講習	JLA主催および登録クラブ主催 36カ所
CPR更新講習	JLA主催および登録クラブ主催 12カ所

ライフセーバー資格発行数

ライフセーバー資格種別	資格発行数
ベーシック　サーフ　ライフセーバー資格	670
アドバンス　サーフ　ライフセーバー資格	127
IRBクルー資格	11
IRBドライバー資格	2
ウォーター　ライフセーバー資格	3
CPR（心肺蘇生法）	1051
サーフおよびウォーター資格更新	302
CPR更新	127
	2293

■ 審査員資格

START → C級審判員 → B級審判員 → A級審判員 → S級審判員

C級審判講習会　実績（2010年度）

2010年度			
	日程	場所	人数
1	2010年 4月24日（土）	東京都／城西国際大学	51
2	2010年 8月29日（日）	北海道／おたるドリームビーチ	5
3	2010年 9月10日（金）	新潟県／柏崎市民プラザ	6
4	2010年 9月12日（日）	神奈川県／かながわ女性センター	30
5	2010年10月 2日（土）	東京都／城西国際大学	27
6	2010年11月14日（日）	神奈川県／湘南ひらつかビーチパーク	12
7	2010年11月28日（日）	大阪府／大阪ハイテクノロジー専門学校	15
8	2010年12月 4日（土）	東京都／日本体育大学	72
9	2010年12月 5日（日）	東京都／東京メディカル・スポーツ専門学校	32
10	2011年 1月16日（日）	大阪府／大阪体育大学	2
11	2011年 1月22日（土）	東京都／東京スポーツ・レクリエーション専門学校	24
12	2011年 2月 6日（日）	静岡県／アイミティー浜松	12
			288

RESCUE 2010　世界選手権大会

ライフセービング世界選手権大会

■大会概要

ライフセービング世界選手権大会は、国際ライフセービング連盟（ILS）が主催して2年に1度開催される国際的な最高位の大会です。国別対抗戦ではオーシャン（海）競技とプール競技の男女種目の総合得点によって競われます。毎回、世界40ヶ国の参加があります。さらに、クラブ対抗戦の選手を含めると世界から約3,500人のライフセーバーが集まります。

■日本代表選手団派遣実績

日本代表選手団はこれまで、1986年（カナダ）、1988年(オーストラリア)、1990年（ドイツ）、1992年（日本）、1994年（イギリス）、1996年（南アフリカ）、1998年（ニュージーランド）、2000年（オーストラリア）、2004年（イタリア）、2006年（オーストラリア）、2008年（ドイツ）、2010年（エジプト）に参加しました。

※注）2002年アメリカ大会は同時多発テロの影響により派遣中止

日本代表選手団が世界選手権に参加することによって、ライフセーバーの競技力（人命救助力）をより向上させるとともに、国際的な視点から将来の日本のライフセービング活動を発展させていく人材を育成することを目的に派遣しています。また、世界のライフセーバーたちとの交流を通じて、フレンドシップを深め国際交流をはかっています。

■ 開催年および開催国

1986	カナダ
1988	オーストラリア
1990	ドイツ
1992	日本
1994	イギリス
1996	南アフリカ
1998	ニュージーランド
2000	オーストラリア
2002	アメリカ
2004	イタリア
2006	オーストラリア
2008	ドイツ
2010	エジプト
2012	オーストラリア
2014	（2011年5月に決定）

■ Rescue2010 世界大会

	役職	氏名	
1	団長	小峯　力	ILS委員／JLA理事長
2	役員	土志田　仁	JLAスポーツ担当理事
3	役員	相澤　千春	ILS理事／JLA国際委員長
4	監督	入谷　拓哉	JLA競技力強化委員
5	コーチ	青木　克浩	JLA競技力強化委員
6	コーチ	佐藤　文机子	JLA競技力強化委員
7	トレーナー	笠原　政志	JLAコンディショニング科学委員
8	通訳	宮部　周作	JLA国際委員
9	総務	川地　政夫	JLA事務局
10	総務	三浦　慶子	JLA事務局
11	記録／広報	山岸　重彦	ライフセービングマガジン編集部
12	選手	飯沼　誠司	館山SLSC
13	選手	植木　将人	西浜SLSC
14	選手	清水　雅也	拓殖大学LSC
15	選手	長竹　康介	西浜SLSC
16	選手	西山　俊	東海大学湘南校舎LSC／湯河原LSC
17	選手	山本　晴基	館山SLSC
18	選手	伊藤　彩香	九十九里LSC
19	選手	勝俣　閑	西浜SLSC
20	選手	花岡　香那	館山SLSC
21	選手	藤原　梢	湘南ひらつかLSC
22	選手	毛利　邦	館山SLSC
23	選手	遊佐　雅美	西浜SLSC

※役職、所属は派遣当時のもの

■RESCUE 2010 エジプト大会　概要

大会日程

10月03～04日：ILS理事会･専門委員会
10月06～07日：プール競技
10月08～09日：オーシャン競技

開催地：アレキサンドリア（エジプト アラブ共和国）
主　催：国際ライフセービング連盟
主　管：エジプトダイビング＆ライフセービングフェデレーション（EDLF）
会　場：プール種目／MOUBARAK SWIMMING POOL
オーシャン種目／MAMOURABEACH

■日本代表パートナー企業

オフィシャルメインスポンサー
（株)三洋物産／(株)三洋販売
オフィシャルサプライヤー
（株)ゴールドウイン
サプライヤー
クロックスジャパン合同会社
（株)櫻井興業GUARD事業部
エジプト航空

■RESCUE2010総括

日本代表監督：入谷拓哉

10月6日～9日までエジプトのアレキサンドリアにてRescue2010 世界選手権が開催されました。

日本代表チームの成績は､参加43ヶ国国中、総合8位（298points）で、前回大会の11位（224points）に比べても最高の成績を残す事が出来ました。

プール競技では、個人種目でのB決勝進出が一つの目標でありましたが、6種目でB決勝進出（毛利選手、花岡選手、山本選手、清水選手2種目、西山選手)。予想では3種目が何とか予選通過できればと思っておりましたので、非常にうれしい誤算であります。また、リレー種目でも、すべての種目で決勝に残る事ができ、うち3種目がA決勝進出となりました。これまでプール競技では非常に厳しい戦いを強いられてきて、日本代表チームの強化ポイントとしても挙げてきただけに、これまでの選手強化の成果が表れた結果となりました。

そして、なんといってもSERC種目（飯沼選手、長竹選手、勝俣選手、西山選手）で銀メダルを獲得できたことは、日本のライフセービング界にとっても大きな価値のある結果です。日本チームが終了した時点では、会場から割れんばかりの拍手と歓声で金メダル獲得を確信しましたが、一歩及ばすオーストラリアチームに敗れてしまいました。しかし、これは非常に価値のある銀メダルで、またひとつオーストラリアの背中を捉えた瞬間でもありました。同時に、日本代表チームは単に競技力だけではなくレスキュー力も世界トップレベルであることを実証できた瞬間でもありました。まさに日本のライフセーバーはレスキューアスリートであると証明した瞬間でもありました。

オーシャン競技では、得意のビーチフラッグスで3選手（藤原選手、遊佐選手、植木選手）がメダル獲得をする事が出来ました。当たり前のようではありますが、その当たり前だからこそのプレッシャーは3選手には相当なプレッシャーであったに違いありません。3選手の精神力の強さには感心させられるばかりであります。

また、ビーチリレーでも男女とも決勝に進出することができ合宿の成果が感じられました。サーフ種目ではボードレースでのメダル獲得を狙っていましたので、残念ながらその目標は達成できませんでしたが､ボードレスキュー

■ 国別総合結果

1位	Australia	800 Point
2位	New Zealand	776 Point
3位	Germany	534 Point
4位	Italy	516 Point
5位	South Africa	482 Point
6位	France	468 Point
7位	Netherlands	311 Point
8位	**Japan**	**298 Point**
9位	Spain	293 Point
10位	USA	245 Point
11位	Great Britain	239 Point
12位	Belgium	158 Point
13位	China	155 Point
14位	Canada	142 Point
15位	Egypt	88 Point
16位	Switzerland	73 Point
17位	Ireland	71 Point
18位	Romania	65 Point
19位	Denmark	60 Point
20位	Poland	37 Point
21位	Bulgaria	34 Point
22位	Hungary	34 Point
23位	Austria	33 Point
24位	Hong Kong - China	24 Point
25位	Chinese Taipei	21 Point
26位	Singapore	16 Point
27位	Iran	16 Point
28位	Slovenia	14 Point
29位	Sweden	8 Point
30位	Norway	7 Point
31位	Ukraine	4 Point
32位	Croatia	1 Point
33位	Finland	0 Point
34位	Malaysia	0 Point
35位	Czech Republic	0 Point
36位	Kenya	0 Point
37位	St Lucia	0 Point
38位	Portugal	0 Point
39位	India	0 Point
40位	Russia	0 Point
41位	Greece	0 Point
42位	South Korea	0 Point
43位	Argentina	0 Point

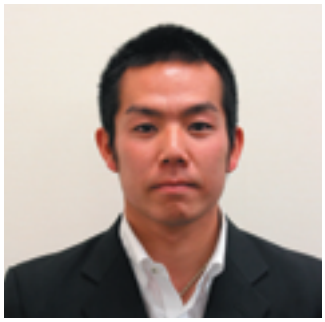
では、なんと女子（伊藤選手、勝俣選手）が銅メダルを獲得する事が出来ました。クラフト種目でのメダル獲得は98年ニュージーランド大会でのサーフスキー女子（丸山選手）での獲得につづく快挙になります。このレスキュー種目でメダル獲得が出来た事も、日本のライフセービング界にとって非常に価値あるものであります。

以上のように今回はこれまでにない好成績を得る事が出来ましたが、冷静に振り返ってみると、やはりこの成果はチームワークのたまものであると感じます。特にサーフ種目の個人成績は残念ながら良い結果はえられませんでしたが、その分チーム種目で好成績を残す事が出来ました。個々がすべてチームのために、みんなのためにと戦った、チーム一丸となった成果であります。ライフセービング活動にとっては、競技に限らずチームワークは非常に大切です。それを今回の代表選手は結果をもって実証してくれました。この素晴らしい選手たちにただただ感謝するばかりであります。

最後に、これまで多くの方々、企業様からの手厚いサポートに、改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。（会報誌「The RESCUE」No.39より）

男子

飯沼　誠司



長竹　康介

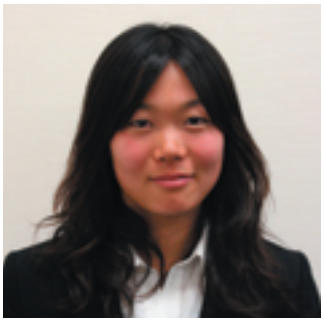
植木　将人

西山　　俊

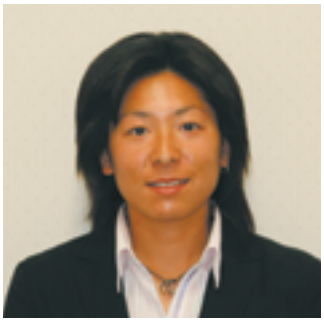
清水　雅也

山本　晴基

女子



伊藤　彩香



藤原　　梢

勝俣　　閑

毛利　　邦

花岡　香那

遊佐　雅美

プール競技総合：11位
オーシャン競技総合：　7位
総合成績：　8位

■ 日本代表チーム競技結果

SERC・プール競技　結果

SERC

飯沼・長竹・西山・勝俣	2位

ラインスロー

勝俣・藤原	5位（13.48）
長竹・植木	9位（10.61）

4×50m障害物リレー

山本・清水・西山・飯沼	8位（1.45.53）、予選（1.45.30）
花岡・毛利・藤原・伊藤	11位（2.00.38）

4×50mメドレーリレー

山本・西山・清水・長竹	8位（1.37.35）
花岡・毛利・伊藤・勝俣	11位（1.52.60）

4×25mマネキンリレー

山本・清水・長竹・飯沼	9位（1.19.90）
毛利・花岡・勝俣・藤原	10位（1.38.15）

100mレスキューメドレー

毛利　邦	11位（1.19.73）
勝俣　閑	1.26.57
山本晴基	1.11.01
清水雅也	失格

50mマネキンキャリー

山本晴基	12位（33.23）
清水雅也	32.92
花岡香那	41.28
勝俣　閑	43.13

200m障害物スイム

花岡香那	14位（2.20.40）
山本晴基	15位（2.06.07）
清水雅也	2.09.13
伊藤彩香	2.25.25

100mマネキントウ・ウィズフィン

西山　俊	13位（58.94）、予選（58.79）
長竹康介	1.03.43
伊藤彩香	1.20.17
毛利　邦	1.11.61

100mマネキンキャリー・ウィズフィン

飯沼誠司	58.98
西山　俊	54.28
毛利　邦	1.08.15

200mスーパーライフセーバー

長竹康介	2.33.48
西山　俊	2.29.91
伊藤彩香	2.50.91
花岡香那	2.50.13

オーシャン競技　結果

ビーチフラッグス

藤原　梢	1位
遊佐雅美	2位
植木将人	2位
清水雅也	予選敗退

ビーチスプリント

藤原　梢	8位
植木将人	10位
遊佐雅美	準々決勝敗退

ビーチリレー

植木・山本・西山・飯沼	5位
遊佐・藤原・勝俣・花岡	9位

ボードレスキュー

伊藤・勝俣	3位
西山・長竹	6位

レスキューチューブレスキュー

花岡・毛利・遊佐・藤原	7位
飯沼・西山・清水・山本	13位

オーシャンマンリレー

飯沼・清水・長竹・植木	6位

オーシャンウーマンリレー

伊藤・勝俣・花岡・藤原	14位

ボードレース

長竹康介	8位
勝俣　閑	10位
伊藤彩香	12位
西山　俊	16位

サーフレース

毛利　邦	14位
花岡香那	18位
清水雅也	21位
山本晴基	予選敗退

サーフスキーレース

飯沼誠司	11位
西山　俊	準決勝敗退
伊藤彩香	準決勝敗退
勝俣　閑	予選敗退

オーシャンマン

飯沼誠司	12位
長竹康介	14位

オーシャンウーマン

伊藤彩香	決勝進出
毛利　邦	準決勝敗退

※公式競技結果は、世界大会公式サイトをご覧ください。http://www.rescue2010.com/

ライフセーバーアワード2010

救命賞

藤田和人　宮崎LSC代表／JLA九州支部長

JLA九州支部創設に貢献、かごしま磯LSC、宗像LSC、福岡LSC、新宮LSC等のJLA加盟の架け渡しに尽力され、九州ライフセービング競技会を開催するなど、地域クラブ間の連携強化を図る。また、本年は口蹄疫が発生したが、宮崎県の観光振興における水辺の事故防止活動に積極的に取り組み、「渚の交番」活動を通じてパトロール年間活動を実施、宮崎市特別機能消防団水上バイク隊に参加、宮崎県の海の安全管理の一環で、ライフセービング講習会参加費の補助制度を確立する等、地域の水辺の事故防止活動に著しく貢献された。（写真右）

スポーツ賞

国際武道大学トレーナーチーム

JLA競技会において、2001年からトレーナーテントを設置してから今年で10年、傷害発生時の対応はもちろん、ライフセーバーの傷害予防のためのコンディショニング指導によってライフセーバーの自己管理の普及啓発、競技会の安全運営に著しく貢献された。（写真右）

ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー

飯沼誠司　館山SLSC代表／
RESCUE2010日本代表キャプテン／競技力強化委員

RESCUE2010世界選手権エジプト大会では、団体種目の一つであるシュミレーテット・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）で日本初銀メダルを獲得、日本代表キャプテンとしてチームをまとめ、チーム総合8位入賞に大きく貢献。また、永年にわたるご自身の監視救助活動、スポーツ活動、教育活動等の現場活動はもとより、競技力強化委員としても次世代の選手育成にも努め、クラブ代表としてクラブ運営へリーダーシップを発揮され地域の発展に著しく貢献された。（写真右）

子どもたちをライフセービングプログラムへ送り出すだけでなく、自ら心肺蘇生法やサーフライフセービングの資格を取得され、地域のライフセービング活動へ保護者一同で積極的に参加。また、JLA競技会やイベント等へ審判員やスタッフとしても参加され、保護者としてのライフセービング活動へ新たなアプローチの仕方を創造し、地域の活性化に著しく貢献された。（写真右）

**西浜サーフライフセービングクラブ
ジュニア保護者会**

教育賞

「小さな地球づくり」と題して、地元教育委員会とタイアップして環境プログラムを展開。ビーチコーミングを交えた工作教室、泥だんごを用いたキラキラ光る地球のミニチュア作りなど、子どもたちへ事故防止活動・環境プログラムを展開。今年10月に開催された「生物多様性条約第10回締約会議（COP10）」に参加、活動発表、交流事業、ブースの出展、展示を実施し、ライフセービング活動の普及に著しく貢献された。（写真右）

愛知ライフセービングクラブ

環境賞

Section2

事業報告書

救命部

救急蘇生委員会

レサシテーションレポート

2010年度パトロールログ集計報告によると、レスキュー総数は1,052件。内訳は重溺者が12件、軽溺者が76件、安全移送が964件。重溺者（意識不明の溺者）救助のうち、7名が蘇生、5名が死亡。

年度末に実施する予定であったライフセーバー向けの速報発表は、ライフセービングフォーラムが中止となったため、実施しなかった。

今後は事後検証、フィードバックの方法をさらに検討するため、レポートの書式を改正し、医学用語の定義を明確にしたい。

ガイドライン2010の普及

2010年10月18日にILCORよりGuideline2010が発表され、ILS（国際ライフセービング連盟）、医科学委員会の声明に基づいて、JLA公式ホームページへ速報を発表した。
http://www.jla.gr.jp/sosei/03.htm

医学的研究

CPR時のライフセーバーのPulse Checkについて、論文を社団法人日本循環器学会の誌上へ発表した。
Accuracy of Pulse Checks in Terms of Basic Life Support by Lifesavers, as Lay Persons.
Circulation Journal 2010;74;1895-1899
http://www.jstage.jst.go.jp/article/circj/74/9/1895/_pdf/-char/ja/

今後はライフセーバーの水上における人工呼吸 “Rescue Breathing”の妥当性について、研究を実施へ向けて計画したい。

またこれまでJLAが行って来た全国海水浴場調査、パトロール統計をまとめて論文化し、臨床救急医学会誌へ投稿中である。

▶ **CPR施行症例**

年度	CPR 施行	AED 使用	ショック適応	病院前ROSC※
2010	7	6	0	5/7（71.4）
2009	8	8	1	1/8（12.5）
2008	8	7	0	2/8（25.0）
2007	10	7	1	6/10（60.0）
2006	7	1	0	3/7（42.9）

※ROSC ＝心拍再開

溺水事故防止委員会

パトロールログ・レポート集計

2011年1月31日までにJLAへ提出された報告書・パトロールログ・パトロールレポートのうち、集計可能なデータ134カ所において、データの集計、分析を行い、報告書へまとめた。

その年の天候や、集計できた海水浴場数も加味する必要があるが、1998年からの統計以降、2010年度はレスキュー総数が最も少ない年であった。

2010年度は、報告書の回収率が58.8%、パトロールログおよびパトロールレポートの回収率が62.1%であった。引き続き、回収率向上のため、レポート書式の改訂、インフォメーションの徹底に努めたい。

溺水事故防止に向けた調査研究

パトロールログ・レポート集計、分析、報告書作成、現状の課題分析に加え、土木学会沿岸域連携委員会、海岸利用ワーキング主催の離岸流調査へ協力参加した。

ABSAMP（オーストラリアのビーチ安全管理プログラム）関連の資料を入手し、評価指標の日本への適用性を継続検討する。

今後は溺水事故が多発している海岸の抽出方法、解析方法を検討し、そのメカニズムの解明、対応策を継続検討していく。

論文公開・アウトリーチ

2011年5月ベトナムでILS(国際ライフセービング連盟)が主催する World Conference on Drowning Prevention 2011へアブストラクト（論文概要）を投稿したところ採択され、世界のライフセーバー、溺水事故防止関わる研究者へ向けて、「Outbreak Factors of Drowning on the Shores of Japan（日本の海浜における水難事故の発生要因）」と題する論文を5月13日に発表する。発表では日本の溺水事故の現状、離岸流と事故の関係、特に海岸構造物周りの事故要因の分析、公的救助機関とLSの連携、条例、教育などの課題を述べ、最終的に溺水事故に関する3つの要因を挙げ、これらに対する事故防止のための方策提案を行う。今後は国内学会等への投稿も積極的に実施したい。

また神奈川県で検討が進められた相模湾沿岸70カ所設置予定の海岸利用者の溺水事故防止看板へ技術サポートを行った。

教育部

指導委員会

資格講習会の実施

2010年度実施予定の資格講習会および更新講習会は、順調に実施された。講習会の開催にあたって、必要備品の整備検討、また開催時の安全対策及び規定策定の提言、指導員ユニフォームの再検討や、指導員規定の施行など、スムーズに運営できる基盤を整えた。

また、講習会受講者アンケートの過去実施分を精査したが、今後は受講者の自己達成度などが確認できるようなアンケート項目・方法を検討したい。（2010年度実績はp26参照）

指導員養成

指導員養成講習会の基本概要案を策定し、養成カリキュラムを検討した。インストラクターズマニュアル、「ウォーターセーフティカリキュラム」「プール・ライフガーディング」各インストラクター・カリキュラムなどを具体的に検討した。

さらに2年分の指導員報告書の精査を始めたが、今後は未提出分の確認と、指導実績等のデータベース化を具体的に進めたい。

指導員研修会の実施

指導員資格継続のためのインストラクター研修会を全6回（147名参加）実施した。JLAアカデミー新資格体系（2012年スタート）及び指導員規定の説明を行い、指導員誓約書への捺印をもって、参加全指導員へ指導委員委嘱を行った。

今後は指導員の資格別分科会の実施や、指導員総会などを計画し、指導委員同士の情報交換、情報共有を図りたい。

開催日	会場	参加人数
1月10日（祝月）	国立オリンピック記念青少年総合センター	39名
1月15日（土）	東京メディカル・スポーツ専門学校	56名
1月17日（月）	国立オリンピック記念青少年総合センター	21名
1月23日（日）	愛知県女性総合センター	21名
1月28日（金）	ザ・ビーチタワー沖縄	7名
1月29日（土）	渚の交番	3名
	指導員研修会参加人数合計	147名

ウォーターセーフティ関連教本

「ウォーターライフセービング」講習のリニューアルに伴う「ウォーターセーフティ」のカリキュラムならびに関連教本の編集へ向けて目次原案および教本装丁イメージを立案した。

今後は資格制度の確定スケジュールに合わせて、執筆作業を開始したい。

学生委員会

学生リーダーの育成

2010年4月17日（土）・18日（日）、西日本学生リーダーズミーティングを大阪府／大阪体育大学にて実施。4校、41名（男子20名・女子21名）が参加。西日本地区における学生クラブの現状報告や意見交換、レクリエーションを行った。

また2011年2月5日（土）・6日（日）、学生リーダーズキャンプを東京都／国立オリンピック記念青少年総合センターにて実施。28校、95名（男子63名・女子32名）が参加。学生クラブのリーダーらが一堂に会し、「自覚」をテーマに議論・交流をはかった。

今後は支部が展開される地域を目安に、地方展開することで、学校クラブの地方拡大につなげたい。

学生大会組織運営

2010年9月25日（土）・26日（日）、千葉県御宿町／御宿海岸で行われた第25回全日本学生ライフセービング選手権大会、また2011年2月11日（金）・12日（土）、静岡県浜松市／古橋廣之進記念 浜松総合水泳場TOBIOで行われた第2回全日本学生ライフセービングプール選手権大会において、学生委員会が大会実行委員として加わり、運営に参加した。

ミーティングを重ねて大会運営にあたった。

高校生ライフセーバーの拡大

高校生プロジェクトを開催し、高校生へライフセービング普及・啓蒙活動を行った。

高校生プロジェクト～高校生プログラム～は2010年5月29日（土）神奈川県藤沢市／片瀬西浜海岸にて《海》編を実施。23名（男子20名・女子3名）が参加。2010年12月19日（日）茨城県龍ケ崎市／流通経済大学龍ヶ崎キャンパスにて《プール》編を実施。6校1クラブ・96名（男子79名・女子17名）が参加。年々参加人数は増加傾向にあるが、クラブ数はまだまだ拡大対策が必要である。

さらに2010年5月30日（日）神奈川県藤沢市／片瀬東浜海岸にて第2回高校生ライフセービング競技会を実施。66名（男子38名・女子28名）が参加。2011年2月12日（土）静岡県浜松市／古橋廣之進記念 浜松総合水泳場TOBIOで行われた第2回全日本学生ライフセービングプール選手権大会内で、高校生記録会を実施。12名（男子4名・女子8名）が参加。これら競技会、記録会はいずれも学生委員会の大学生らが中心となって、企画、運営にあたることで、クラブ運営への動機付けとして良い相乗効果をもたらしている。

これらの実績を次へのステップとし、中学生向けのプログラム開発へつなげたい。

教育部

ジュニア教育委員会

ジュニアライフセービング教室

日本財団による助成事業として全国18クラブ752名の小中学生を対象に開催し752名の参加があった。支部枠を設け、事前研修を地域毎に依頼し実施。参加児童の保護者に対する意識調査も実施したところ、10クラブ133名からの回答を得た。教室実施クラブにはニッパーボード2本、ジュニア用キャップ参加者全員分を助成支援いただいた。

さらにジュニアテキスト3000部、ジュニアリーフレット3000部、指導指針冊子100部を制作し、普及のための配布物として活用した。

臨海学園指導協力

東京都北区（12年目）、東京都千代田区（4年目）の各区教育委員会主催事業の臨海学園へ指導協力を行った。

●東京都北区中学校
7月21日～8月10日
参加者1,482名
指導ライフセーバー303名

●東京都千代田区中学校
7月21日～7月25日
参加者189名

指導ライフセーバー45名パトロール期間中の指導員確保が課題として残るが、ジュニア教育指導指針の検証とプログラム開発へつながることから、継続実施したい。

第7回ジュニアライフセービング競技会with JLAクラシック

神奈川県藤沢市／片瀬東浜海岸にて2010年8月22日（日）実施。小学生中学生あわせて25チーム238名参加。またJLAクラシックは27名参加。

猛暑対策はもちろんだが、海水浴場開設期間でのプログラム実施のため、様々課題がある。

参加者が増加傾向であるため、開催地とスタッフ確保を検討したい。

ジュニア指導者研修会

臨海学園指導や、ジュニアライフセービング教室、その他のジュニア向けイベントに備え、夏期事前研修会を開催した。2010年6月12日（土）兵庫県神戸市／神戸YMCA学院専門学校では10名が参加。6月13日（日）東京都世田谷区／成城学園高等学校では23名が参加。

日本財団助成事業

ジュニアライフセービング指導者研修会
～未来を拓く子ども達へ「生きる力」を～

東日本会場：東京メディカル・スポーツ専門学校（東京都）
日　　時：2010年2月13日（日）9:30～16:30

―― プログラム ――
開会式
講義1「ジュニア教育概論」
「ジュニア教育のマネジメント他」
「ジュニア教育実践報告<大洗SLSC>」
講義2「子供のコンディショニング」
JLAコンディショニング委員会
小粥委員長
演習
閉会式

西日本会場：宮崎県宮崎市　渚の交番
＊自然災害の影響で中止。

また日本財団による助成事業として、ジュニアライフセービング教育指導者研修会を実施。東日本会場では2011年2月13日（日）東京都江東区／東京メディカル・スポーツ専門学校にて60名が参加。

西日本会場は自然災害などの影響で実施を見合わせた。

これらは今後ジュニア指導者養成にともない資格化されることを見据えて、研修構成を展開していきたい。

企業との連携

育児介護サービス会社の東京都／株式会社ポピンズコーポレーションが展開している「アクティブラーニングスクール」と提携。全国初のキッズライフセービングを実施。ゲームや運動を通じて、いのちの大切さを感じてもらう年間プログラムの開発、提供を行った。

プログラム開発と今後の展開
1）年間を通じたジュニア（キッズ）教育プログラム開発
2）比水辺（保育園／幼稚園／小・中・高等学校）年間プログラム開発
3）ライフセービング活動の再開および指導者としての雇用創出
4）既存の施設（ポピンズ社保有）指導および企業契約と全国展開

▶ ジュニア教室開催一覧（助成：日本財団）

主催クラブ	参加人数
愛知LSC	82
大洗SLSC	99
大磯LSC	29
大阪LSC	46
大竹SLSC	100
岡山LSC	24
小樽LSC	24
かごしま磯LSC	18
柏崎LSC	16
勝浦LSC	40
鴨川LSC	30
相良SLSC	40
札幌LSC	32
北谷公園サンセットビーチLSC	27
西伊豆LSC	16
西浜SLSC	11
山口LSC	19
横浜海の公園LSC	30
合計	752

スポーツ部

競技運営・審判委員会

審判員の養成講習会･研修会

2010年度Ｃ級審判員養成講習会は全12回開催(288名)した。そのうち支部主催が2件(北海道、中部)、地域クラブ主催が１件であった。引き続き、支部および地域クラブ主催による講習会の実施を増やしていくことが課題である。

また、審判員研修会は全2回開催（86名）し競技規則改正点の確認などスキルアップをはかった。

競技審判員マニュアル作成

競技審判員マニュアルは競技会開催に向けた準備の手順や役割分担、さらには競技会で審判を行う時のコース設定や判定の留意点などをまとめたもので、2008年度に初版を発行した。2010年度は、JLA競技規則の改正とより良い運営方法の蓄積にともない、競技審判員マニュアルの内容を改正し、正誤表としてまとめた。

競技会運営

2010年度は、公式競技会9箇所、公認競技会1箇所の運営を行った。また地域大会においては審判員を派遣した。

「観せる」部分を意識した会場レイアウトや、参加者、観戦者のための式次第や演出もより良くなる為に工夫したい。

▶審判員研修会の開催

開催日	会場	参加人数
1月16日（日）	大阪府／大阪体育大学	48
1月22日（土）	東京都／東京スポーツ・レクリエーション専門学校	38

▶競技会、審判、スタッフの人数

開催日	大会名	審判員数／スタッフ数
5月15日～16日	第23回全日本プール競技選手権	75／63
6月 5日～ 6日	第23回全日本種目別選手権	83／54
8月22日	第7回ジュニア選手権 with 第2回JLA classic	22／51
9月 4日	第11回オーシャンサーフチャレンジin白浜	18／12
9月 5日	三洋物産インターナショナルライフセービングカップ2010	18／4
9月11日	第36回全日本西日本地区予選	19／18
9月18日～20日	第36回全日本東日本地区予選	92／48
9月25日～26日	第25回学生選手権	69／129
10月23日～24日	第36回全日本選手権	71／77
2月11日～12日	第2回学生プール競技選手権	77／35

2010年度競技会概要一覧はp24.25参照

競技力強化委員会

国内強化合宿の実施

2010年度の第5期強化指定選手（2010年11月～2011年10月）より「ハイパフォーマンスプログラム」を実施している。このプログラムは、2006年に開始した強化プログラムのように幅広く選手を選考（70～80名）するのではなく、より絞り込んで選考（28名）し、少人数で綿密な合宿を実施することで強化をはかるものである。同時に、チームワークや団結力を高めることにもつながっている。

◇強化合宿

2010年11月27・28日　サーフ合宿
国際武道大学（千葉県）　24人
2010年12月11日　プール合宿
専修大学（神奈川県）　25人
2011年2月27日　プール合宿
法政大学（東京都）　23人
2011年3月20・21日　サーフ合宿
国際武道大学（千葉県）　中止

日本代表選手強化合宿と派遣

2010年10月、2年に一度の世界大会RESCUE2010がエジプトで開催された。2010年度の上半期はその代表チームづくりと強化に的を絞った合宿を実施した。

また、世界大会後の日本代表は若手選手を軸に編成され、国際大会への経験値を増やす目的で派遣した。

◇日本代表強化合宿

2010年6月27日　サーフ合宿
片瀬西浜（神奈川県）　12人
2010年7月10・11日　プール合宿
流通経済大学（茨城県）　12人
2010年8月7日　プール合宿
日大藤沢高校（神奈川県）　12人
2010年9月23日　プール合宿
日大藤沢高校（神奈川県）　12人

◇日本代表派遣

(1) 2010年9月／和歌山県
三洋物産インターナショナルライフセービングカップ2010
A代表12人
B代表12人
(2) 2011年1月／ニュージーランド
International Surf Rescue Challenge2011
A代表12人
(3) 世界大会Rescue2010レポートはp28-31参照

国内競技の視察・その他

競技力強化委員会によるJLA公式競技会視察を実施し、選手選考や競技レベルの把握を行った。 また今後、強化拠点を拡充し全国各地での強化事業の展開を検討するうえで、支部関係者と情報交換を行った。

医・科学部

コンディショニング科学委員会
アンチ・ドーピング委員会

競技会／日本代表選手サポート

JLA公式競技会で､トレーナーステーションを国際武道大学トレーナーチーム他の協力のもと開設した。また、日本代表選手サポートとしては、2010年度の世界大会にむけて事前の国内合宿の段階から積極的に参加・帯同し、

セルフコンディショニングの強化に努めた。さらには海外遠征含め、世界大会にも帯同し、コンディショニングならびにドーピング対策へのサポートを行った。

コンディショニングセミナー

2010年度のコンディショニングセミナーはライフセービングフォーラムとの共催により、ライフセーバーのためのセルフコンディショニングについてとドーピング対策の講話を予定していたが、東日本大震災の翌日であったためやむなく中止となった。2011年度で実施を予定している。

学術研究委員会

関連研究のサポート他

パトロール統計データの利活用についての方針等、いわゆるJLA所有の知的財産の管理と運用に関するルールの作成に着手した。また、これまでの全国海水浴場パトロール統計関連について学術論文としてまとめたり、ILS主催の国際溺水事故防止学会（2011年5月・ベトナム開催）へ論文を投稿し、委員を派遣したりするなど学術研究活動を遂行した。このような研究成果の活用・公表方法については継続して検討したい。

なお､ライフセービングフォーラムを開催予定であったが､次年度へ見送った。

国際・広報事業部

国際・広報事業委員会

国際競技会のサポート

「三洋物産インターナショナルライフセービングカップ」、「世界大会Rescue2010」、「インターナショナルサーフレスキューチャレンジ2011」において、サポートを行った。特に国外競技会向けに、エントリーの手続き、渡航準備を行い、さらに通訳として1名帯同した。

JLA国際事業のサポート

ILS主催事業にともなう､情報収集･翻訳作業､JLAからの情報発信の翻訳作業をサポート。2010年度はRescue2010開催時にILS理事会・委員会が実施され、理事会向けのレポートを作成。
また2011年度5月実施予定の「2011 World Conference on Drowning Prevention」参加のサポートを継続中。

JLA委員会のサポート

各種プロジェクトや事業で必要な、海外からの情報収集、翻訳を行った。SLSA（サーフライフセービング オーストラリア）主催のコーチングセミナーの受講にともなう情報収集、フォローを継続中。また世界大会などの国際イベント招致についての情報収集と、その翻訳作業を行った。

各種情報発信

事務局が主体となり、ホームページの管理、その他情報発信の改善を図った。年2回、舵社発行のレスキューマガジン編集監修、会員向け会報誌「The Rescue」の編集を行った。
また2010年度、日本ライフセービング協会のアニュアルレポート創刊号を発刊。さらにネットワーク強化の検討を始め、twitterの運用を開始した。

監修
LifeSaving 2010 Vol.11
2010年4月25日
株式会社舵社発行
LifeSaving 2010 Vol.12
2010年11月30日
株式会社舵社発行

編集
会報誌　The Rescue　38
会報誌　The Rescue　39
アニュアルレポート2009

公式ホームページ
http://www.jla.gr.jp/index.htm

公式twitter
http://twitter.com/jlahq

特別委員会―中期プロジェクト

支部協議委員会

支部設立支援

現在設立されている5支部に加え、さらに設立準備段階の5エリアを含め、中期目標として、10支部の設立を目指している。

また支部設立後の運営基盤の確立ができるよう、課題や問題点を共有し、改善に取り組みたい。

―**2010年度現在**――

▼設立支部	▼準備支部
北海道支部	東北地域
神奈川支部	新潟県地域
中部支部	千葉地域
九州支部	東京地域
沖縄支部	近畿地域

支部毎の地域での運営強化には、各委員会との連携を計って、ジュニア向けイベントや、資格講習会・更新講習会の実施の充実なども含め、地域の魅力を高めることも計画したい。

会員会費制度の見直し

支部設立後の会員数拡大のために、魅力ある会員会費制度構築に向けて、制度の見直しを提案し、地域からの声を収集した。

JLA会員であることの魅力を探る事の中で、1.大学を卒業したあと、社会人でも活動がしやすい事。2.個々のニーズに合わせた活動がしやすい事。3.ジュニア世代からのファンを増やし、囲い込む事。4.総じて誰でも入会しやすいシステムである事。これらを体系的に反映できないか、シュミレーションした。

またこれまでの法人格の変化にともない、資格を失効した方向け、会員継続とならなかった方々向けのインフォメーションやキャンペーン実施案があげられた。

2011年度はシミュレーションにともなう実現性を探り、会員拡大に確実につながる制度見直しであるかどうか、短期間での検証が必要である。他委員会とも連携を図って、組織全体で検討に入れるよう、引き続き各支部からの情報を収集し、本部事務局との協働に備えたい。

世界大会招致検討委員会

委員会設置趣旨

1992年静岡県下田市で開催された世界大会Rescue92以降、アジアで世界大会の実施がない。JLAは国内統合から20年、NPO法人化10年目を迎え、アジアでのライフセービングリーダーシップを内外に示し、さらなる発展と、水辺の事故ゼロを目指すため、世界大会日本招致の検討を始めた。

◇開催実施概要
2010年10月開催済
エジプト／アレキサンドリア
2012年11月開催予定
オーストラリア／アデレード
2014年開催地未定
2016年開催地未定

◇招致スケジュール
▼招致募集スタート
→招致申込フォームの提出
▼招致立候補国の現地視察
▼最終開催候補国の決定
▼ILS理事会
最終候補地のプレゼン、
視察報告後決定

招致検討の流れ

2010年4月以降、招致に必要な情報収集を始めたが、国内機運を高めながら進める事を重要視することとしたため、JLA専門委員会へ招致にともなうアンケートを実施。前向きな意見や、開催後のライフセービング発展を期待する声を確認した。2010年10月、エジプトで開催された世界大会Rescue2010では、ILSメンバーとの懇談や、会議での情報収集を行った。その結果、2014年と2016年の開催募集があることから、なるべく早いタイミングの2014年大会に立候補することとし、同時に、招致検討委員会から招致委員会へと名称と役割を改編した。開催にあたっては、会員の皆様、各支部と開催自治体の皆様、関連団体の協力が不可欠なことから、支部とILSが提示している開催条件の情報共有を行い、国内開催地の絞り込みに入った。2011年2月締切の招致申込を済ませ、無事招致立候補国として受理されたが、ILS視察団を迎える直前の段階で、東日本大震災が発生し、国内情勢が急変した。

こうした状況を考慮し、最終判断として今回の2014年大会の招致はやむなく見送ることを決定し、ILSに報告した。

今後に向けた動きと課題

これまでの招致活動の中で様々な情報を得ることができた一方、国内選考に関する各支部や自治体とのより連携した情報交換や大会開催に向けての財務基盤の確保、そして国内機運の醸成といった課題があげられた。今後、これまでの経緯と課題を継承し、引き続き、「RESCUEシリーズ」の招致活動に向け、その実現という大きな目標に向かって会員の皆様とともに第一歩を踏み出したい。

また、大会だけでなく、国際溺水事故防止学会といったアカデミックな分野も視野に入れ、会員一丸となった国際貢献に取り組む事で、国内外のライフセービングの発展を目指したい。

Topics

2010年10月のILS理事会で決定された今後の世界大会のあり方について…

2014年以降、国別対抗戦は2年毎に、クラブ対抗戦、その他のオプションは4年毎に実施する案が採択された。

よって2014年は国別対抗戦のみ、2012年は国別対抗戦およびクラブ対抗戦、その他オプションの開催が予定されている。

特別委員会
特別プロジェクト—短期プロジェクト

資格制度検討プロジェクト

JLA Academy始動に向けて

ライフセービングの国内普及を目的に実施している現在の資格制度を踏まえ、より一層水辺の事故防止を強化すべく「JLA Academy」の構築を主に協議を重ねた。その軸を担う新資格、及び改正点は以下の通りである。なお、講習内容や受講条件等の詳細は「指導員会」と「ジュニア教育委員会」と連携し、整え、移行措置やプレ講習等を踏まえ、平成24年度よりスタートを目指していく。その際、引き続きILS国際資格との連携を視野に入れることを継続課題としている。

①「Water Safety」

13歳以上を受講年齢の条件とし、水辺の安全における基礎資格として、セルフレスキューを主とした講習会の設置を検討。

②「Basic Surf Lifesaver」

17歳以上の受講を可能とした講習会の設置を検討。（例：大学生以下の場合、Water safetyを取得し、保護者の同意が得られる者）

③「Pool Lifeguard」

プールにおける監視・救助活動に特化した資格を2段階において設置することを検討。

④「Assistant Instructor」

指導補助の明確な役割を担い、講習会の安全や効率を向上させる目的として再度、設置をすることを検討。

⑤「Junior」関連における体系列を新設（Supporter-Leader-Assistant-Instructor）

子どもたちへの安全面や指導内容、質の向上を目的とした指導者資格の設置を検討。

Section3

Rescue Report

レスキューレポート

1. 2010年度パトロールログ集計

JLAでは、1998年よりJLAが関与している海水浴場（一部プールも含む）において、各ライフセービングクラブの協力を得てパトロールログの集計を行っている。この集計は、JLAプロジェクトに掲げられた、レスキューの減少、パトロールシステムの構築、社会復帰率の向上に貢献しうる情報収集のために実施するものである。海水浴場における水難事故の詳細な統計データは、公的機関では集計しておらず、日本の水難事故防止に向けた様々な対策を考える上で、非常に貴重なデータである。

今回のデータ集は、2011年1月31日までに提出されたデータのうち、集計可能なデータであった134箇所（報告書:126箇所、集計：133箇所）について集計を行ったものである。回収率は報告書が58.8%、集計が62.1%であった。

▶集計結果

1.1 結果概要

図1に、報告書（ワードファイル）で報告された126箇所の海水浴場及びプールにおけるパトロール中に発生したアクシデント(FA（ファーストエイド)、迷子、レスキュー）数を示す。FA数は、14,903件、迷子数は､953件､レスキュー数は1,052件であった。

図2に、レスキューの内訳（重溺者・軽溺者・安全移送）を示す。重溺者が12件、軽溺者が76件、安全移送が964件であった。なお各項目の定義は以下の通り。

- **重溺者(意識なし)**：意識不明の溺者の救助
- **軽溺者(意識あり)**：意識はあるが自力で浮くことが困難な溺者の救助
- **安全移送**：自力で浮くことはできるが､自ら安全な位置や浜に移動することができない者の移送等

図3に、重溺者の内訳（蘇生・死亡・不明)を示す。12件の重溺者のうち、7名が蘇生、5名が死亡であった。

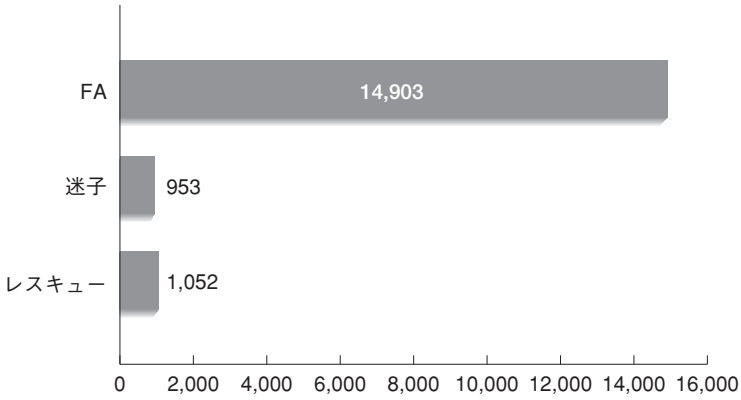
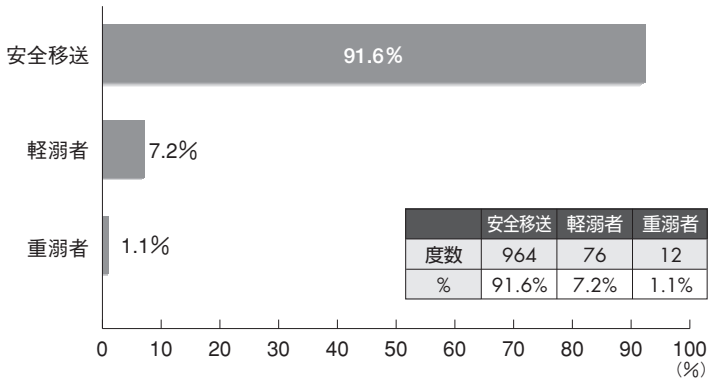
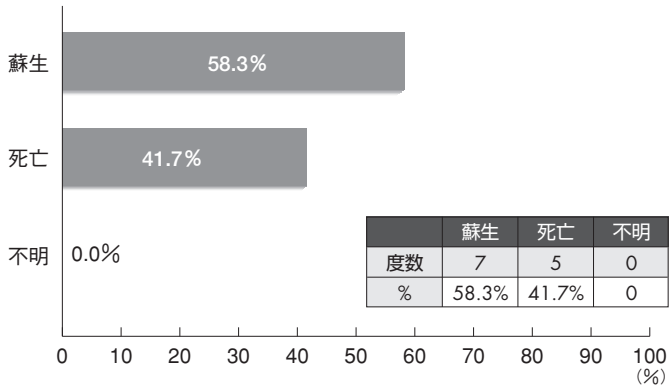


図1 パトロール中のアクシデント数



	安全移送	軽溺者	重溺者
度数	964	76	12
%	91.6%	7.2%	1.1%

図2 レスキューの内訳



	蘇生	死亡	不明
度数	7	5	0
%	58.3%	41.7%	0

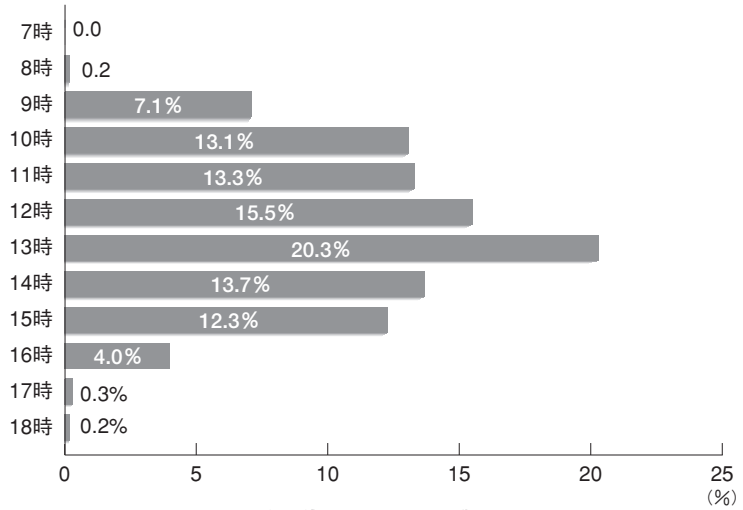
図3 重溺者の内訳

1.2 結果詳細（抜粋）

集計（レスキューレポート）

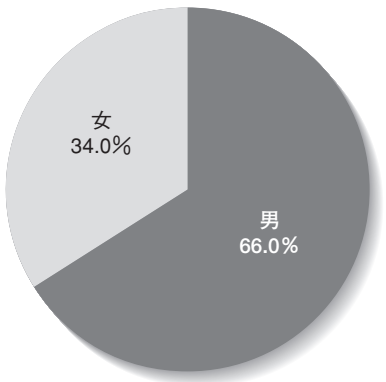
ここでは、集計のレスキューレポートで提出された安全移送・軽溺者・重溺者の733件のデータの集計結果のみを列記する。集計に関しては、頻度分布及び割合を示す。各集計値の合計は欠測値があるため、必ずしも733件にはならない。

レスキューの特性に関するデータ

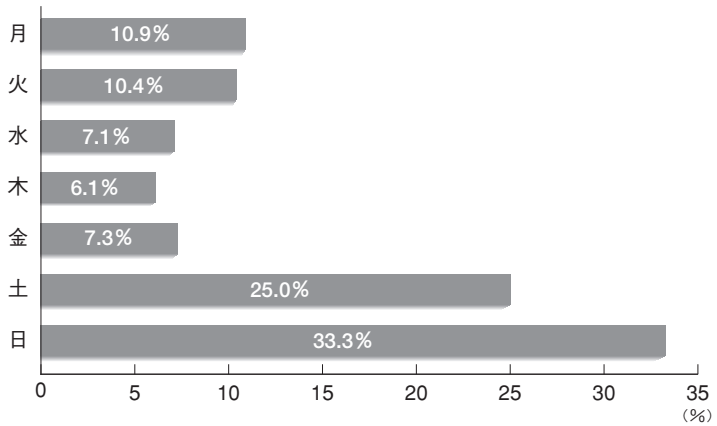


時間帯別レスキュー数

時間帯別レスキュー数													
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	合計
度数	0	1	47	87	88	103	135	91	82	27	2	1	664
頻度	0.0%	0.2%	7.1%	13.1%	13.3%	15.5%	20.3%	13.7%	12.3%	4.1%	0.3%	0.2%	



男女別レスキュー数



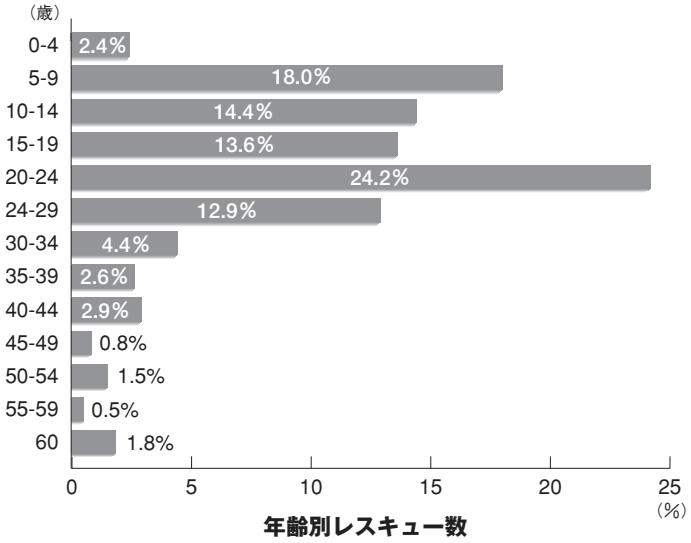
曜日別レスキュー数

性別レスキュー数			
	男	女	合計
度数	496	256	752
頻度	66.0%	34.0%	

曜日別別レスキュー数								
	月	火	水	木	金	土	日	合計
度数	84	80	55	47	56	193	257	772
頻度	10.9%	10.4%	7.1%	6.1%	7.3%	25.0%	33.3%	

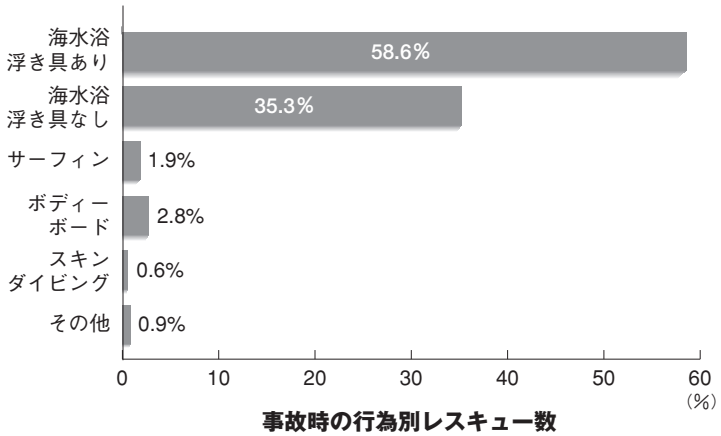
年齢別レスキュー数							
	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	24-29	30-34
度数	16	119	95	90	160	85	29
頻度	2%	18%	14%	14%	24%	13%	4%

	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60	合計
度数	17	19	5	10	3	12	660
頻度	3%	3%	1%	2%	0%	2%	



年齢別レスキュー数

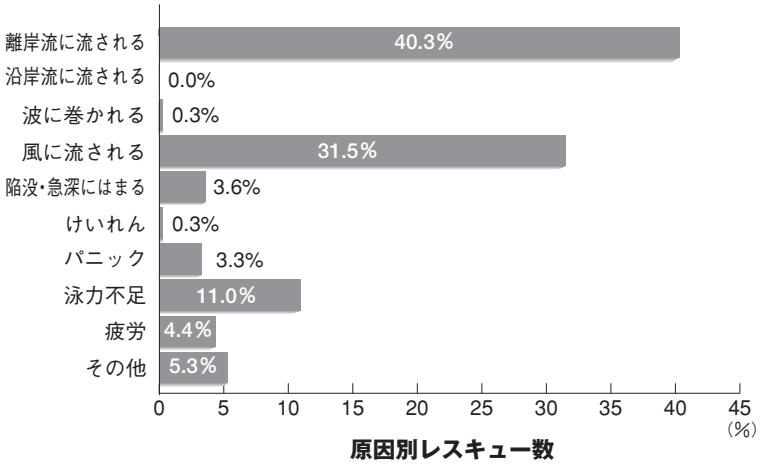
レスキューの要因に関するデータ



事故時の行為別レスキュー数

事故時行為別レスキュー数				
	海水浴 浮き具あり	海水浴 浮き具なし	サーフィン	ボディーボード
度数	404	243	13	19
頻度	58.6%	35.3%	1.9%	2.8%

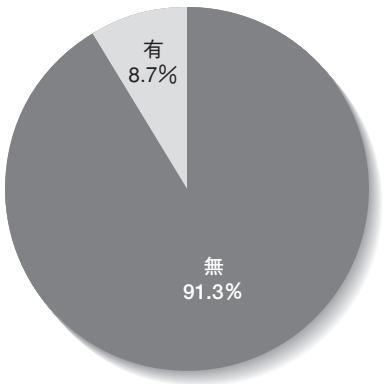
	スキンダイビング	その他	合計
度数	4	6	689
頻度	0.6%	0.9%	



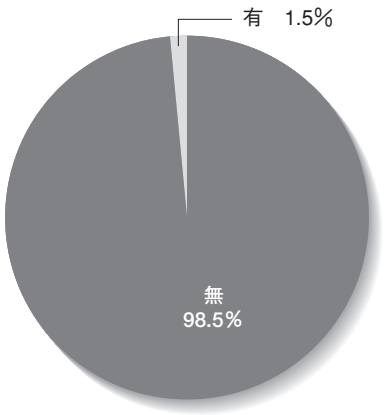
原因別レスキュー数

原因別レスキュー数											
	離岸流に流される	沿岸流に流される	波に巻かれる	風に流される	陥没・急深にはまる原別	けいれん	パニック	海水浴 浮き具あり	海水浴 浮き具あり	海水浴 浮き具あり	合計
度数	267	0	2	209	24	2	22	73	29	35	663
頻度	40.3%	0.0%	0.3%	31.5%	3.6%	0.3%	3.3%	11.0%	4.4%	5.3%	

レスキューの要因に関するデータ（個人要因）

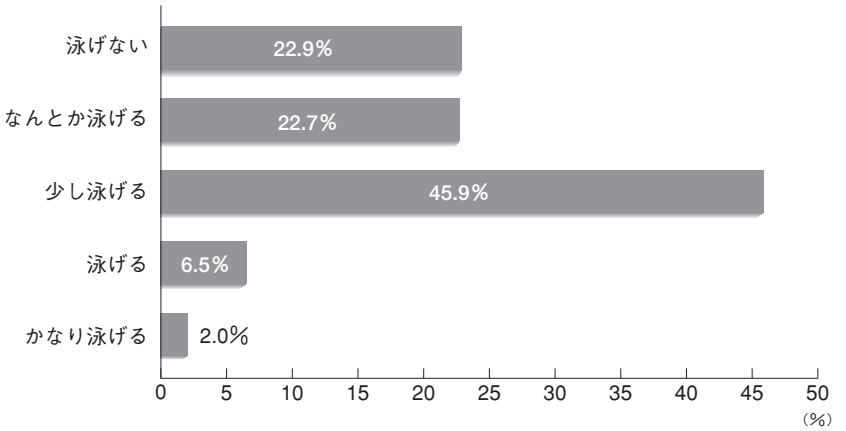


飲酒の有無			
	男	女	合計
度数	64	674	738
頻度	8.7%	91.3%	



被救助者の飲酒及び持病の有無

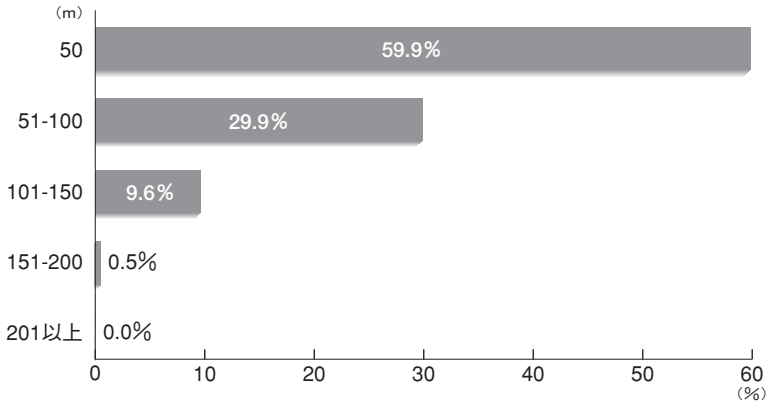
持病の有無			
	男	女	合計
度数	10	676	686
頻度	1.5%	98.5%	



被救助者の水泳能力

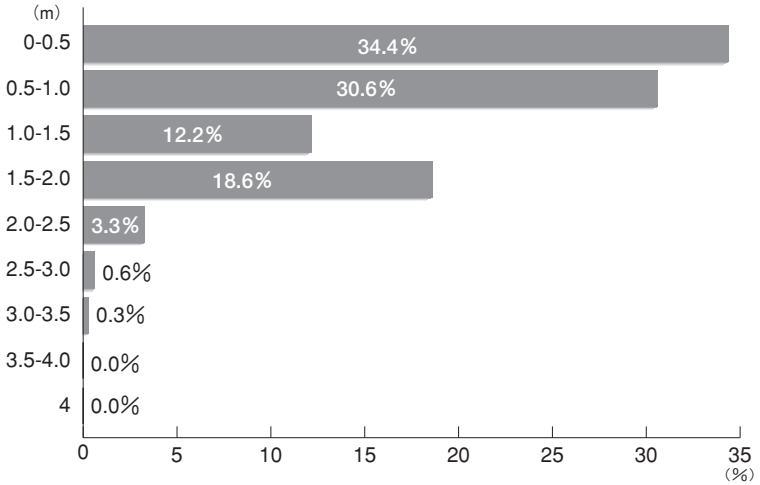
被救助者の水泳能力						
	泳げない	なんとか泳げる	少し泳げる	泳げる	かなり泳げる	合計
度数	170	169	341	48	15	743
頻度	22.9%	22.7%	45.9%	6.5%	2.0%	

レスキューの要因に関するデータ（自然要因）



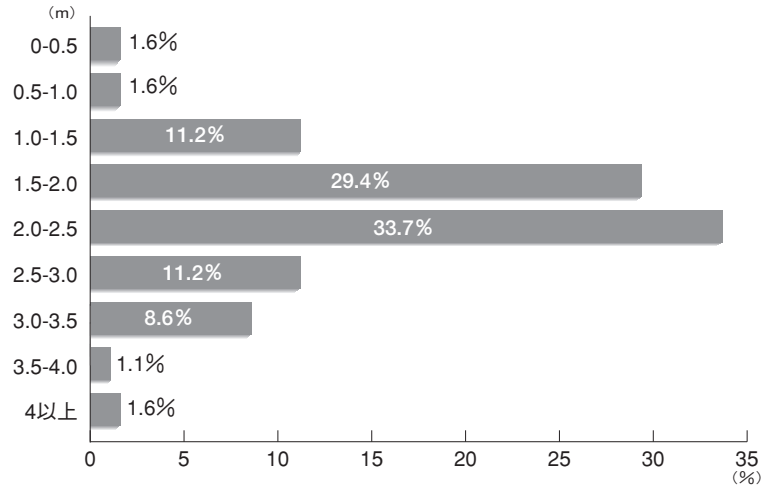
レスキュー地点の汀線からの距離

汀線からの距離（m）						
	50m	51-100m	101-150m	151-200m	201m	以上合計
度数	112	56	18	1	0	187
頻度	59.9%	29.9%	9.6%	0.5%	0.0%	

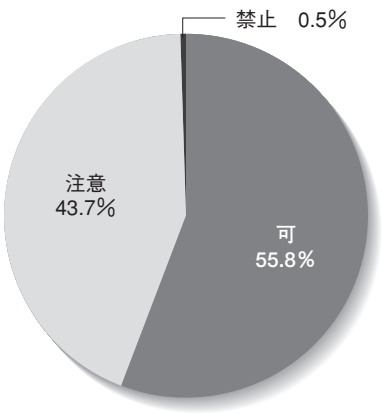


レスキュー時の波高

波高（m）										
	0-0.5	0.5-1.0	1.0-1.5	1.5-2.0	2.0-2.5	2.5-3.0	3.0-3.5	3.5-4.0	4	合計
度数	247	220	88	134	24	4	2	0	0	719
頻度	34.4%	30.6%	12.2%	18.6%	3.3%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	



レスキュー地点の水深



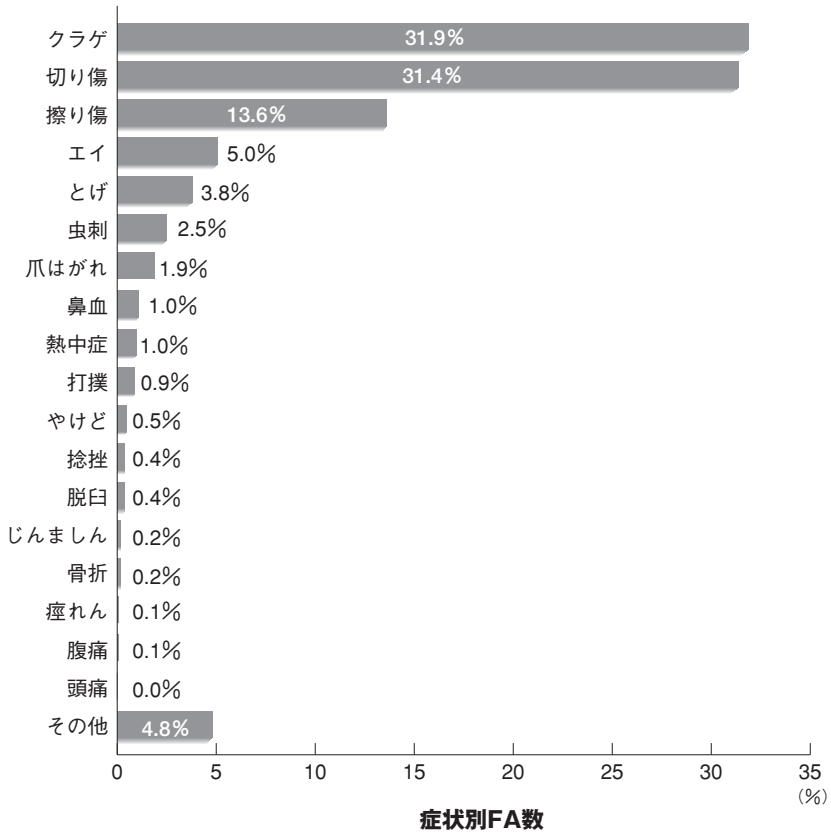
レスキュー時の遊泳条件

水深（m）										
	0-0.5m	0.5-1.0m	1.0-1.5m	1.5-2.0m	2.0-2.5m	2.5-3.0m	3.0-3.5m	3.5-4.0m	4m	以上合計
度数	3	3	21	55	63	21	16	2	3	187
頻度	1.6%	1.6%	11.2%	29.4%	33.7%	11.2%	8.6%	1.1%	1.6%	

遊泳条件				
	可	注意	禁止	合計
度数	414	324	4	742
頻度	55.8%	43.7%	0.5%	

集計（ファーストエイドレポート）

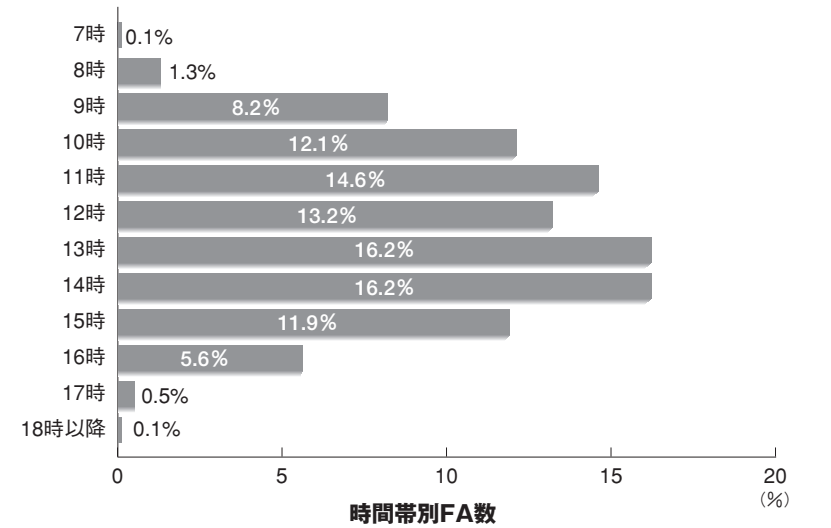
ここでは、集計のファーストエイドレポートで提出されたファーストエイドの5,674件のデータの集計結果のみを列記する。集計に関しては、頻度分布及び割合を示す。各集計値の合計は欠測値があるため、必ずしも5,674件にはならない。



症状別FA数

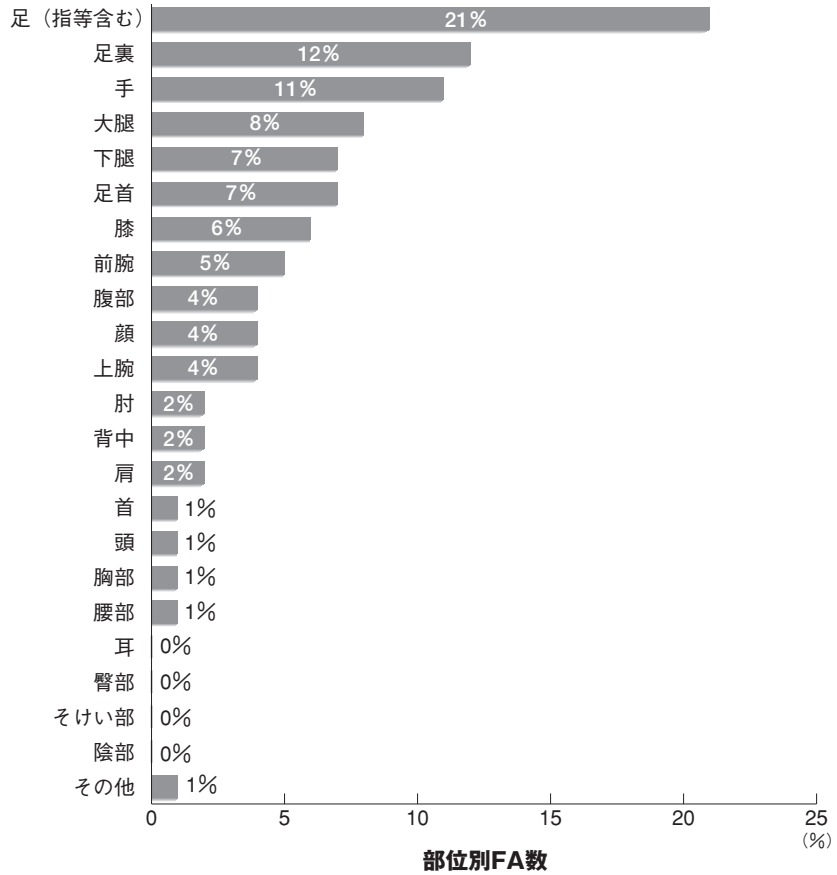
症状別FA数										
	クラゲ	切り傷	擦り傷	エイ	とげ	虫刺	爪はがれ	鼻血	熱中症	打撲
度数	1812	1782	769	290	215	143	105	63	55	53
%	31.9%	31.4%	13.6%	5.1%	3.8%	2.5%	1.9%	1.1%	1.0%	0.9%

	やけど	捻挫	脱臼	じんましん	骨折	痙れん	腹痛	頭痛	その他	合計
度数	28	25	20	14	12	6	6	2	274	5674
%	0.5%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	4.8%	



時間帯別FA数

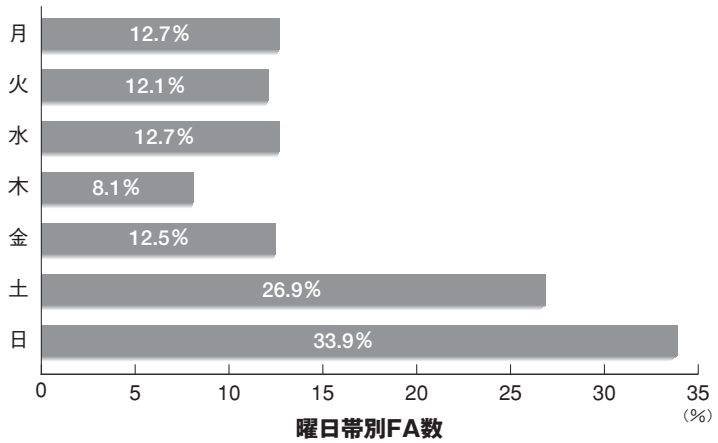
時間帯別FA数													
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時以降	合計
度数	7	61	394	579	697	629	774	774	568	268	22	4	4777
頻度	0.1%	1.3%	8.2%	12.1%	14.6%	13.2%	16.2%	16.2%	11.9%	5.6%	0.5%	0.1%	



部位別FA数

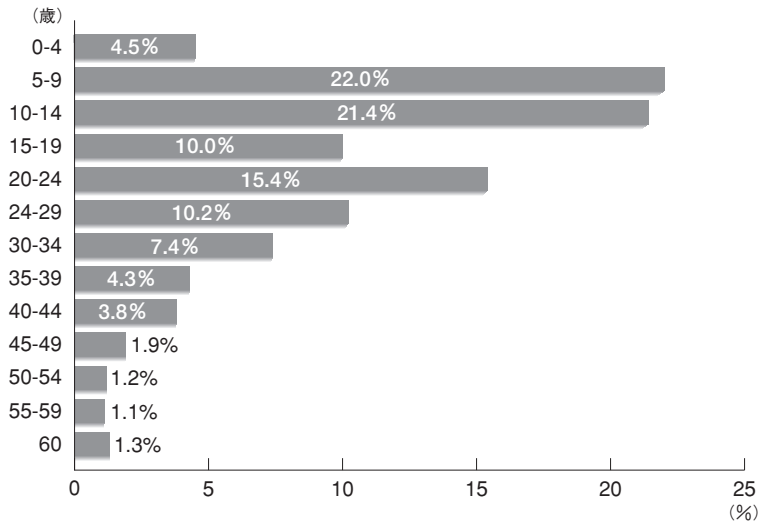
部位別FA（数）												
	足(指等含む)	足	裏手	大腿	下腿	足首	膝	前腕	腹部	顔	上腕	肘
度数	929	529	480	358	305	289	250	227	174	169	165	104
頻度	21%	12%	11%	8%	7%	7%	6%	5%	4%	4%	4%	2%

	背中	肩	首	頭	胸部	腰部	耳	臀部	そけい部	陰部	その他	合計
度数	80	67	54	47	46	37	14	12	6	3	36	4381
頻度	2%	2%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	



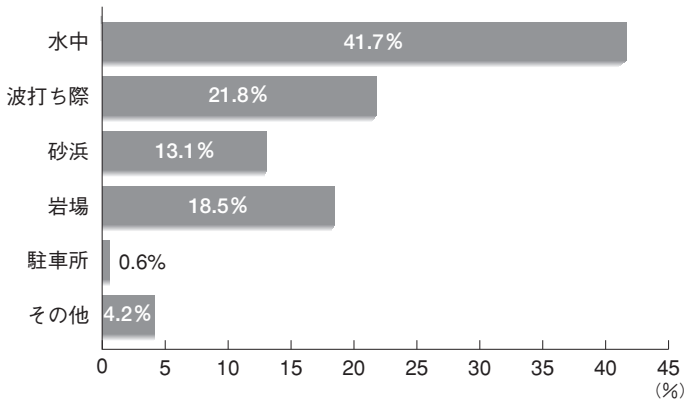
曜日帯別FA数

曜日別FA数								
	月	火	水	木	金	土	日	合計
度数	606	576	605	386	596	1285	1620	774
頻度	12.7%	12.1%	12.7%	8.1%	12.5%	26.9%	33.9%	



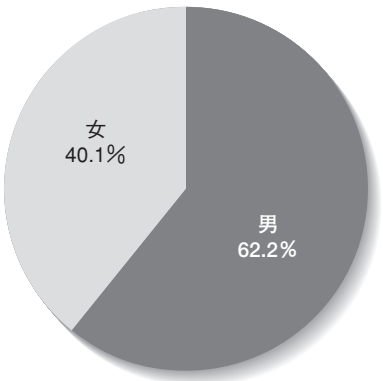
年齢帯別FA数

年齢別FA数														
	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	24-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60	合計
度数	210	1027	1003	468	718	476	345	203	179	89	58	51	60	4677
頻度	4.5%	22.0%	21.4%	10.0%	15.4%	10.2%	7.4%	4.3%	3.8%	1.9%	1.2%	1.1%	1.3%	



発生場所別FA数

発生場所別FA数							
	水中	波打ち際	砂浜	岩場	駐車場	その他	合計
度数	2138	1116	670	950	33	217	5124
頻度	41.7%	21.8%	13.1%	18.5%	0.6%	4.2%	



性別FA数

性別FA数			
	男	女	合計
度数	3187	2053	5240
頻度	62.2%	40.1%	

—公式競技会大会結果—

▶ 第23回 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日：2010年5月15日（土）・16日（日）　開催場所：横浜国際プール（神奈川県横浜市）

個人種目競技結果

男子　女子　男子　女子

■ 50mマネキンキャリー

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	清水　雅也	拓殖大学LSC	33.01
2	田村　憲章	銚子LSC	34.92
3	飯沼　誠司	館山SLSC	35.12
4	西條　拓一	新島LSC	35.54
5	橋本　将吾	拓殖大学LSC	35.91
6	出木谷啓太	九十九里LSC	36.65
7	後藤　優太	愛知LSC	36.82
8	中嶋　拓人	日本体育大学LSC	37.1

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	花岡　香那	館山SLSC	40.64
2	佐伯　芽維	日本体育大学LSC	41.45
3	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC	42.5
4	勝俣　閑	西浜SLSC	42.97
5	藤原　梢	湘南ひらつかLSC	44.18
6	鈴木　郁蘭	新島LSC	44.89
7	原田　恵	早稲田大学LSC	46.34
8	國東　瑞紀	日本女子体育大学LSC	47.28

■ 100mマネキントゥ・ウィズフィン

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	西山　俊	東海大学湘南校舎LSC	59.79 日本新 大会新
2	小出　大祐	鴨川LSC	1:00.28
3	長竹　康介	西浜SLSC	1:00.44
4	林　昌広	御宿LSC	1:00.46
5	中村　公彦	大竹SLSC	1:00.70
6	出木谷啓太	九十九里LSC	1:01.29
7	池谷　薫	柏崎LSC	1:03.91
8	木原　拓己	東海大学湘南校舎LSC	1:03.97

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	水間　菜登	勝浦LSC	1:08.92
2	篠岡　桂子	東海大学湘南校舎LSC	1:09.86
3	森山　瞳	波崎SLSC	1:10.85
4	原田　香菜	日本女子体育大学LSC	1:11.73
5	原　怜来	波崎SLSC	1:12.08
6	森　真奈	日本体育大学LSC	1:13.29
7	三浦　貴絵	下田LSC	1:13.91
8	上村　真央	拓殖大学LSC	1:14.11

■ 100mマネキンキャリー・ウィズフィン

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	西山　俊	東海大学湘南LSC	56.06 大会新
2	西條　拓一	新島LSC	56.65
3	高橋　徹	和田浦LSC	1:00.12
4	多田　創一	玉川大学LSC	1:00.61
5	大谷翔一郎	流通経済大学LSC	1:01.77
6	中島　章	新島LSC	1:01.85
7	篠田　智哉	勝浦LSC	1:02.47
8	霜田　将輔	成蹊大学LSC	1:03.25

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	毛利　邦	館山SLSC	1:06.87 大会新
2	篠岡　桂子	東海大学湘南校舎LSC	1:07.54 大会新
3	藤田　恵巳	日本女子体育大学LSC	1:08.77
4	水間　菜登	勝浦LSC	1:08.81
5	神村　美咲	日本女子体育大学LSC	1:11.13
6	森山　瞳	波崎SLSC	1:12.17
7	我妻　瑞穂	東京女子体育大学LSC	1:12.60
8	三浦　貴絵	下田LSC	1:13.89

■ 100mレスキューメドレー

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	飯沼　誠司	館山SLSC	1:12.39
2	加藤　凌	早稲田大学LSC	1:14.13
3	中島　章	新島LSC	1:14.88
4	中山　直哉	波崎SLSC	1:15.66
5	田村　憲章	銚子LSC	1:16.29
6	岡田　悟	日本大学SLSC	1:17.05
7	坂本　類	早稲田大学LSC	1:17.20
8	葺本　康隆	波崎SLSC	1:19.18

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	毛利　邦	館山SLSC	1:21.52 大会新
2	佐伯　芽維	日本体育大学LSC	1:22.39
3	栗真　千里	日本体育大学LSC	1:24.34
4	勝俣　閑	西浜SLSC	1:24.78
5	鈴木　郁蘭	新島LSC	1:26.93
6	原田　恵	早稲田大学LSC	1:31.01
7	金坂　佳瑛	日本女子体育大学LSC	1:32.83
8	青木麻佑美	西浜SLSC	1:33.16

■ 200m障害物スイム

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	山本　晴基	館山SLSC	2:05.25
2	遠藤　雅	柏崎LSC	2:05.66
3	清水　雅也	拓殖大学LSC	2:07.01
4	菊地　光	日本大学SLSC	2:09.58
5	加藤　凌	早稲田大学LSC	2:10.15
6	葺本　康隆	波崎SLSC	2:11.66
7	橋本　将吾	拓殖大学LSC	2:12.08
8	澤田　翼	日本体育大学LSC	2:12.79

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	栗真　千里	日本体育大学LSC	2:20.49 日本新 大会新
2	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC	2:24.74
3	花岡　香那	館山SLSC	2:27.00
4	下山　愛由	日本体育大学LSC	2:27.31
4	加藤みづき	新島LSC	2:27.31
6	鈴木　聖美	日本大学SLSC	2:27.92
7	三吉　菜月	大阪体育大学LSC	2:31.78
8	伊藤　彩香	九十九里LSC	2:33.08

■ 200mスーパーライフセーバー

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	長竹　康介	西浜SLSC	2:27.43
2	古金　源太	日本体育大学LSC	2:30.48
3	伊藤　俊輔	館山SLSC	2:31.65
4	林　昌広	御宿LSC	2:32.18
5	矢部翔太郎	東海大学湘南校舎LSC	2:35.37
6	中根　和記	拓殖大学LSC	2:37.10
7	中野　達矢	日本体育大学LSC	2:37.98
8	相島　千尋	早稲田大学LSC	2:38.78

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	加藤みづき	新島LSC	2:45.64
2	伊藤　彩香	九十九里LSC	2:46.85
3	原　怜来	波崎SLSC	2:53.86
4	藤田　恵巳	日本女子体育大学LSC	2:57.21
5	下山　愛由	日本体育大学LSC	2:58.28
6	宮田　沙依	日本体育大学LSC	3:03.99
7	上原　絢子	大竹SLSC	3:14.93
8	兼田明日佳	愛知LSC	3:23.27

チーム・SERC種目競技結果

■ 4×25mマネキンリレー

順位	クラブ名	タイム
1	東海大学湘南校舎LSC	1:32.63
2	日本大学SLSC	1:35.24
3	流通経済大学LSC	1:36.09
4	国士舘大学LSC	1:45.42
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—

順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	1:45.12 大会新
2	日本女子体育大学LSC	1:54.23
3	東京女子体育大学LSC	1:55.36
4	西浜SLSC	2:07.93
5	鴨川LSC	2:10.05
6	勝浦LSC	2:10.93
—	—	—
—	—	—

■ 4×50m障害物リレー

順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	1:51.02
2	柏崎LSC	1:52.18
3	東海大学湘南校舎LSC	1:53.38
4	銚子LSC	1:54.36
5	波崎SLSC	1:55.53
6	早稲田大学LSC	1:57.65
7	愛知LSC	1:59.16
8	流通経済大学LSC	2:00.63

順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	2:04.24 大会新
2	東海大学湘南校舎LSC	2:10.50
3	日本女子体育大学LSC	2:10.77
4	東京女子体育大学LSC	2:12.86
5	波崎SLSC	2:12.88
6	勝浦LSC	2:15.25
7	鴨川LSC	2:16.10
8	西浜SLSC	2:18.17

■ 4×50mメドレーリレー

順位	クラブ名	タイム
1	館山SLSC	1:39.26
2	大阪体育大学LSC	1:41.14
3	日本大学SLSC	1:41.49
4	拓殖大学LSC	1:41.89
5	柏崎LSC	1:42.63
6	西浜SLSC	1:43.60
—	—	—
—	—	—

順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	1:52.34 大会新
2	勝浦LSC	1:56.26
3	日本女子体育大学LSC	1:56.92
4	東京女子体育大学LSC	1:58.97
5	波崎SLSC	1:59.84
6	早稲田大学LSC	2:01.91
7	西浜SLSC	2:03.93
8	大阪体育大学LSC	2:04.90

■ ラインスロー

順位	クラブ名	タイム
1	勝浦LSC	11.03 大会新
2	西浜SLSC	11.33 大会新
3	日本体育大学LSC	12.24
4	順天堂大学LSC	12.84
5	玉川大学LSC	15.55
6	九十九里LSC	18.76
7	鴨川LSC	18.91
8	茨城大学LSC	22.35

順位	クラブ名	タイム
1	大阪体育大学LSC	17.77
2	流通経済大学LSC	18.70
3	土肥LSC	18.95
4	日本女子体育大学LSC	21.92
5	下田LSC	24.51
6	早稲田LSC	24.87
7	東京健康科学専門学校LSC	26.69
8	日本体育大学LSC	36.27

■ シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技

順位	クラブ名	得点
1	流通経済大学LSC	91.00
2	大竹SLSC	86.00
2	新島LSC	86.00
4	西浜SLSC	84.00
5	玉川大学LSC	79.00
6	和田浦LSC	78.00
6	大阪体育大学LSC	78.00
8	銚子LSC	76.00
8	勝浦LSC	76.00

※SERC競技にエントリーしないチームは、チーム総合の表彰対象とはならない。
※チームの総合得点が同点の場合は、1位の種目の多いチームを、1位の種目が同数の場合は、2位の種目の多いチームを.というように総合順位を決定する。

総合競技結果

順位	氏名	クラブタイム
1	日本体育大学ライフセービングクラブ	93
2	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ　CREST	69
3	館山サーフライフセービングクラブ	66
4	新島ライフセービングクラブ	48
5	西浜サーフライフセービングクラブ	48
6	日本女子体育大学ライフセービングクラブ	47
7	波崎サーフライフセービングクラブ	40
8	勝浦ライフセービングクラブ	37
9	拓殖大学ライフセービングクラブ	29
10	早稲田大学ライフセービングクラブ	28
11	流通経済大学ライフセービングクラブ	26
12	日本大学サーフライフセービングクラブ	24
13	大阪体育大学ライフセービングクラブ	21
14	柏崎ライフセービングクラブ	20
15	東京女子体育大学ライフセービングクラブ	18
16	銚子ライフセービングクラブ	17
17	九十九里ライフセービングクラブ	17
18	鴨川ライフセービングクラブ	15
19	大竹サーフライフセービングクラブ	13
20	玉川大学ライフセービングクラブ	13
21	和田浦ライフセービングクラブ	9

順位	氏名	クラブタイム
22	下田ライフセービングクラブ	7
23	順天堂大学ライフセービングクラブ	5
23	国士舘大学ライフセービングクラブ	5
25	愛知ライフセービングクラブ	5
26	茨城大学ライフセービングクラブ	1
26	成蹊大学ライフセービングクラブ	1
28	鹿嶋ライフガードチーム	0
28	昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ	0
28	成城学園ライフセービングクラブ	0
28	専修大学サーフライフセービングクラブ	0
28	日本大学ライフセービングクラブ	0
28	法政大学サーフライフセービングクラブ	0
—	御宿ライフセービングクラブ	10
—	土肥ライフセービングクラブ	6
—	湘南ひらつかライフセービングクラブ	4
—	東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ	2
—	鎌倉ライフガード	0
—	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	0
—	東海大学海洋学部ライフセービングクラブ　LOCO	0
—	東京消防庁ライフセービングクラブ	0
—	明治大学サーフライフセービングクラブ	0

▶ 第23回 全日本ライフセービング種目別選手権大会

開催月日：2010年6月5日（土）・6日（日）　開催場所：下田白浜大浜海岸（静岡県下田市）

個人種目

男子

■ サーフレース

順位	選手名	所属
1	伊藤　俊輔	館山SLSC
2	西山　　俊	東海大学湘南校舎LSC CREST
3	益子　進一	日本大学SLSC
4	中島　　章	新島LSC
5	菅沼　寛也	法政大学SLSC
6	橋本　将吾	拓殖大学LSC
7	菊地　　光	日本大学SLSC
8	石川　直人	九十九里LSC

■ サーフスキーレース

順位	選手名	所属
1	池脇　　良	下田LSC
2	内田　直人	辻堂LSC
3	落合　慶二	東京消防庁LSC
4	篠田　智哉	勝浦LSC
5	山口　智史	下田LSC
6	金子　　悟	下田LSC
7	林　　昌広	御宿LSC
8	田中　智之	下田LSC

■ ボードレース

順位	選手名	所属
1	長竹　康介	西浜SLSC
2	小出　大祐	鴨川LSC
3	西山　　俊	東海大学湘南校舎LSC　CREST
4	青木　将展	湯河原LSC
5	落合　慶二	東京消防庁LSC
6	金子　　悟	下田LSC
7	荒井　洋佑	西浜SLSC
8	小山　大志	国士舘大学LSC

■ オーシャンマン/オーシャンウーマン

順位	選手名	所属
1	長竹　康介	西浜SLSC
2	西山　　俊	東海大学湘南校舎LSC　CREST
3	森田　一輝	波崎SLSC
4	伊藤　俊輔	館山SLSC
5	下平　亮輔	成城学園LSC
6	落合　慶二	東京消防庁LSC
7	菅沼　寛也	法政大学SLSC
8	飯沼　誠司	館山SLSC

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	所属
1	植木　将人	西浜SLSC
2	佐々木 啓允	相良SLSC
3	田中　翔太	勝浦LSC
4	池谷　　薫	柏崎LSC
5	和田　賢一	九十九里LSC
6	本多　辰也	東京消防庁LSC
7	上原　修太	日本体育大学LSC
8	北矢　宗志	西浜SLSC

■ ビーチスプリント

順位	選手名	所属
1	小泉　寛隆	日本体育大学LSC
2	本多　辰也	東京消防庁LSC
3	北矢　宗志	西浜SLSC
4	松井　　健	勝浦LSC
5	高村　快人	法政大学SLSC
6	菅沼　孝典	成蹊大学LSC
7	新井　正徳	下田LSC
8	田中　翔太	勝浦LSC

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	所属
1	浅見　泰希	勝浦LSC
2	高瀬　　快	拓殖大学LSC
3	本田　吉紀	茅ヶ崎SLSC
4	小出　洋平	勝浦LSC
5	長谷川 公平	日本体育大学LSC
6	斉藤　勝茂	国士舘大学LSC
7	角口　洋平	勝浦LSC
8	塚本　健二	国士舘大学LSC

女子

■ サーフレース

順位	選手名	所属
1	伊藤　彩香	九十九里LSC
2	栗真　千里	日本体育大学LSC
3	毛利　　邦	館山SLSC
4	花岡　香那	館山SLSC
5	加藤みづき	新島LSC
6	下山　愛由	日本体育大学LSC
7	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC　CREST
8	森山　　瞳	波崎SLSC

■ サーフスキーレース

順位	選手名	所属
1	岡野　　彩	下田LSC
2	須田　好美	柏崎LSC
3	久保 美沙代	日本体育大学LSC
4	三木　玲奈	湯河原LSC
5	波多野　静	日本体育大学LSC
6	伊藤みつる	勝浦LSC
7	佐々木靖子	和田浦LSC
8	小松崎あゆみ	下田LSC

■ ボードレース

順位	選手名	所属
1	鈴木　郁蘭	新島LSC
2	森山　　瞳	波崎SLSC
3	小松崎あゆみ	下田LSC
4	勝俣　　閑	西浜SLSC
5	原田　香菜	日本女子体育大学LSC
6	水間　菜愉	勝浦LSC
7	佐伯　芽維	日本体育大学LSC
8	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC　CREST

■ オーシャンマン/オーシャンウーマン

順位	選手名	所属
1	伊藤　彩香	九十九里LSC
2	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC　CREST
3	三木　玲奈	湯河原LSC
4	原　　怜来	波崎SLSC
5	上村　真央	拓殖大学LSC
6	加藤みづき	新島LSC
7	小松崎あゆみ	下田LSC
8	原田　香菜	日本女子体育大学LSC

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	所属
1	遊佐　雅美	西浜SLSC
2	藤原　　梢	湘南ひらつかLSC
3	秋川知恵子	大洗SLSC
4	神戸　友美	土肥LSC
5	高見沢春香	今井浜SLSC
6	堀　　亜希	スポーツプレックスLSC
7	藤浪　優希	勝浦LSC
8	荒木　麻佑	大阪体育大学LSC

■ ビーチスプリント

順位	選手名	所属
1	藤原　　梢	湘南ひらつかLSC
2	神戸　友美	土肥LSC
3	渡辺　夏海	土肥LSC
4	遊佐　雅美	西浜SLSC
5	荒木　麻佑	大阪体育大学LSC
6	藤浪　優希	勝浦LSC
7	堀　　亜希	スポーツプレックスLSC
8	櫻井 亜矢子	日本体育大学LSC

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	所属
1	佐々木 聡美	日本体育大学LSC
2	高橋　沙恵	順天堂大学LSC
3	松山　梨紗	東京女子体育大学LSC
4	荻野　有子	成城学園LSC
5	河本　桂奈	成城学園LSC
6	国武 あかね	日本体育大学LSC
7	宮原　千明	下田LSC
8	鈴木さゆり	日本女子体育大学LSC

チーム種目

■ オーシャンマンリレー

順位	チーム名	選手名
1	東京消防庁LSC	鈴木　敦士／落合　慶二／石川　　亮／本多　辰也
2	西浜SLSC	坂本　　陸／長竹　康介／荒井　洋佑／植木　将人
3	勝浦LSC	楠本　慶明／篠田　智哉／我妻　敬亮／中村　誠
4	下田LSC	小林孝一郎／松沢　　斉／金子　　悟／新井　正徳
5	日本体育大学LSC	小山浩一郎／澤田　　翼／岡野　太郎／竹井健太郎
6	東海大学湘南校舎LSC CREST	矢部　翔太郎／西山　俊／深井　俊光／木内　卓巳
7	拓殖大学LSC	橋本　将吾／中根　和記／清水　雅也／高橋　敏明
8	銚子LSC	田中　翔／田村　憲章／浅見　雄一郎／伊藤　道彦

■ オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名	選手名
1	日本体育大学LSC	下山　愛由／久保 美沙代／佐々木 聡美／鈴木　由佳
2	日本女子体育大学LSC	松澤みづほ／藤田　恵巳／原田　香菜／高橋　真梨
3	東海大学湘南校舎LSC CREST	篠岡　桂子／河崎　綾子／望月　沙織／池谷　梨乃
4	館山SLSC	毛利　　邦／堤　　容子／間藤　里絵／中島　和美
5	下田LSC	小松崎あゆみ／岡野　彩／宮原　千明／水島　万仲美
6	和田浦LSC	草柳　理香／佐々木　靖子／合津　里恵／主山　　優
7	東京女子体育大学LSC	長田　真奈美／古山　祐里／岡島　美汐／高見　綾香
8	九十九里LSC	木村　寿恵／岡野　鮎子／伊藤　彩香／牧原　加奈

▶ 第7回 ジュニア・ライフセービング競技会

開催月日：2010年8月22日（日）　　開催場所：片瀬東浜海岸（神奈川県藤沢市）

個人種目

■ ビーチフラッグス（小学生3、4年生 男女）

順位	選手名	クラブ名
1	浜田　冬馬	柏崎LSC
2	井上　祐里	西浜SLSC
3	竹内　優希	藤沢市立鵠洋小学校

■ ビーチフラッグス（小学生5・6年生 男子）

順位	選手名	クラブ名
1	並松竜太郎	西浜SLSC
2	和田　拓海	西浜SLSC
3	後藤　健斗	こどもの城

■ ビーチフラッグス（小学生5・6年生 女子）

順位	選手名	クラブ名
1	内堀　夏怜	西浜SLSC
2	山下　晏路	葉山ニッパーズ
3	関口はるか	カワサキSC

■ ビーチフラッグス（中学生 男子）

順位	選手名	クラブ名
1	浅野　暢来	鎌倉LG
2	高梨友美生	成城学園LST
3	平井　翔	鎌倉LG

■ ビーチフラッグス（中学生 女子）

順位	選手名	クラブ名
1	米川　百花	大竹SLC
2	市川　歩美	西浜SLSC
3	深作　　萌	湘南ひらつかLSCヒラッパーズ

■ ボードレース（小学生3・4年生 男女）

順位	選手名	クラブ名
1	船岡　唯斗	柏崎LSC
2	小又　忠士	二宮LSC
3	相馬　大輝	西浜SLSC

■ ボードレース（小学生5・6年生 男子）

順位	選手名	クラブ名
1	皆川　貴海	西浜SLSC
2	渡辺　太朗	西浜SLSC
3	翠生　龍二	西浜SLSC

■ ボードレース（小学生5・6年生 女子）

順位	選手名	クラブ名
1	宮田　成美	バディ冒険団
2	松本　桃子	西浜SLSC
3	内堀　夏怜	西浜SLSC

■ ボードレース（中学生 男子）

順位	選手名	クラブ名
1	上野　　凌	西浜SLSC
2	見角　凌介	西浜SLSC
3	小又英一郎	二宮LSC

■ ボードレース（中学生 女子）

順位	選手名	クラブ名
1	上野　真凛	西浜SLSC
2	高橋　志穂	柏崎LSC
3	伊藤　優子	湯河原LSC

■ ランスイムラン（小学生3・4年生 男女）

順位	選手名	クラブ名
1	船岡　唯斗	柏崎LSC
2	井上　祐里	西浜SLSC
3	橋本　　華	西浜SLSC

■ ランスイムラン（小学生5・6年生 男子）

順位	選手名	クラブ名
1	皆川　貴海	西浜SLSC
2	渡辺　太朗	西浜SLSC
3	森野　郁也	バディ冒険団

■ ランスイムラン（小学生5・6年生 女子）

順位	選手名	クラブ名
1	関口はるか	カワサキSC
2	松本　桃子	西浜SLSC
3	宮田　成美	バディ冒険団

■ ランスイムラン（中学生 男子）

順位	選手名	クラブ名
1	上野　　凌	西浜SLSC
2	櫻井　　希	西浜SLSC
3	永石　哲朗	バディ冒険団

■ ランスイムラン（中学生 女子）

順位	選手名	クラブ名
1	上野　真凛	西浜SLSC
2	高橋　志穂	柏崎LSC
3	加藤　りの	西浜SLSC

チーム種目

■ スイムリレー（小学生の部）

順位	クラブ名	選手名
1	西浜サーフライフセービングクラブ	渡辺太郎／松本桃子／皆川貴海
2	カワサキスイミングクラブ	佐野由弥／関口はるか／川辺美咲
3	こどもの城	藤澤優樹／後藤健斗／武村知旺

■ スイムリレー（中学生の部）

順位	クラブ名	選手名
1	西浜サーフライフセービングクラブ	上野　凌／上野真凛／櫻井　希
2	バディ冒険団	永石哲朗／森野友也／宮田隼人
3	十文字中学校ライフセービングクラブ	志賀　茜／加藤凪紗／高橋サト

▶ 第36回 全日本ライフセービング選手権大会

開催月日：2010年10月23日（土）・24日（日）　開催場所：片瀬西浜海岸（神奈川県藤沢市）

個人種目

男子

■ サーフレース

順位	選手名	所属
1	坂本　陸	西浜SLSC
2	風戸　哉男	館山SLSC
3	小山浩一郎	和田浦LSC
4	山地　智仁	鹿嶋LGT
5	小川原　亮	波崎SLSC
6	高橋　洋平	西浜SLSC
7	矢部翔太郎	湘南ひらつかLSC
8	山本　晴基	館山SLSC

■ サーフスキーレース

順位	選手名	所属
1	松沢　斉	下田LSC
2	鈴木　祐輔	湯河原LSC
3	篠田　智哉	勝浦LSC
4	飯沼　誠司	館山SLSC
5	池脇　良	下田LSC
6	草柳　尚志	和田浦LSC
7	谷中　健文	西浜SLSC
8	大西　明	二宮LSC

■ ボードレース

順位	選手名	所属
1	長竹　康介	西浜SLSC
2	西山　俊	湯河原LSC
3	加藤　拓馬	勝浦LSC
4	落合　慶二	東京消防庁LSC
5	寺内　真吾	神津島LSC
6	深水　幻喜	勝浦LSC
7	荒井　洋佑	西浜SLSC
8	橋本　暁	下田LSC

■ オーシャンマン／オーシャンウーマン

順位	選手名	所属
1	長竹　康介	西浜SLSC
2	落合　慶二	東京消防庁LSC
3	西山　俊	湯河原LSC
4	森田　一輝	波崎SLSC
5	三木　翔平	湯河原LSC
6	菅沼　寛也	下田LSC
7	飯沼　誠司	館山SLSC
8	相島　千尋	波崎SLSC

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	所属
1	植木　将人	西浜SLSC
2	和田　賢一	九十九里LSC
3	北矢　宗志	西浜SLSC
4	佐々木啓允	相良SLSC
5	川村　龍	大磯LSC
6	田中　翔太	勝浦LSC
7	布施　亮平	勝浦LSC
8	細川　俊介	下田LSC

■ ビーチスプリント

順位	選手名	所属
1	森谷　絢太	鴨川LSC
2	宮森　敬介	飯岡LSC
3	北矢　宗志	西浜SLSC
4	岡田　浩平	愛知LSC
5	大山　直樹	九十九里LSC
6	安達　和也	新島LSC
7	中村　誠	勝浦LSC
8	田中　翔太	勝浦LSC

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	所属
1	小出　洋平	勝浦LSC
2	新堀　進悟	土肥LSC
3	高瀬　快	拓殖大学LSC
4	新　涼太	鹿嶋LGT
5	神戸　浩樹	神津島LSC
6	長谷川　公	下田LSC
7	笹本　和人	下田LSC
8	橋本　憲治	式根島LSC

女子

■ サーフレース

順位	選手名	所属
1	河崎　綾子	湯河原LSC
2	毛利　邦	館山SLSC
3	三井結里花	九十九里LSC
4	下山　愛由	岩井LSC
5	越中　万智	九十九里LSC
6	植松知奈津	湯河原LSC
7	鈴木　聖美	九十九里LSC
8	花岡　香那	館山SLSC

■ サーフスキーレース

順位	選手名	所属
1	小松崎あゆみ	下田LSC
2	岡野　彩	下田LSC
3	久保美沙代	和田浦LSC
4	伊藤　彩香	九十九里LSC
5	星野　有美	用宗LSC
6	鈴木　郁蘭	新島LSC
7	須田　好美	柏崎LSC
8	波多野　静	神津島LSC

■ ボードレース

順位	選手名	所属
1	森山　瞳	波崎SLSC
2	宮原　千明	下田LSC
3	岡島　美汐	下田LSC
4	原田　香菜	下田LSC
5	佐伯　芽維	白浜LSC
6	勝俣　閑	西浜SLSC
7	三木　玲奈	湯河原LSC
8	田中亜由美	和田浦LSC

■ オーシャンマン／オーシャンウーマン

順位	選手名	所属
1	伊藤　彩香	九十九里LSC
2	河崎　綾子	湯河原LSC
3	森山　瞳	波崎SLSC
4	三木　玲奈	湯河原LSC
5	原田　香菜	下田LSC
6	佐伯　芽維	白浜LSC
7	毛利　邦	館山SLSC
8	上村　真央	拓殖大学LSC

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	所属
1	藤原　梢	館山SLSC
2	藤浪　優希	勝浦LSC
3	遊佐　雅美	西浜SLSC
4	神戸　友美	土肥LSC
5	秋川知恵子	大洗SLSC
6	渡嘉敷　萌	下田LSC
7	松澤みづほ	九十九里LSC
8	高見沢春香	今井浜SLSC

■ ビーチスプリント

順位	選手名	所属
1	藤原　梢	館山SLSC
2	遊佐　雅美	西浜SLSC
3	高橋　沙恵	九十九里LSC
4	藤浪　優希	勝浦LSC
5	高橋　真梨	下田LSC
6	渡嘉敷　萌	下田LSC
7	渡辺　夏海	土肥LSC
8	池田江里菜	下田LSC

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	所属
1	佐々木聡美	神津島LSC
2	河本　桂奈	下田LSC
3	中島　和美	館山SLSC
4	岡本　伊代	館山SLSC
5	荻野　有子	下田LSC
6	松山　梨紗	西伊豆LSC
7	國武あかね	白浜LSC
8	小林　亜美	九十九里LSC

チーム種目

■ レスキューチューブレスキュー（男女）

順位	チーム名
1	下田LSC
2	館山SLSC
3	新島LSC
4	柏崎LSC
5	鹿嶋LGT
6	岩井LSC

■ ボードレスキュー（男女）

順位	チーム名
1	西浜SLSC
2	湯河原LSC
3	銚子LSC
4	下田LSC
5	館山SLSC
6	波崎SLSC
7	勝浦LSC
8	拓殖大学LSC

■ ビーチリレー（男女）

順位	チーム名
1	勝浦LSC
2	下田LSC
3	飯岡LSC
4	波崎SLSC
5	拓殖大学LSC
6	九十九里LSC
7	新島LSC
8	白浜LSC

■ オーシャンマンリレー（男子）

順位	チーム名
1	東京消防庁LSC
2	湯河原LSC
3	西浜SLSC
4	下田LSC
5	九十九里LSC
6	勝浦LSC
7	館山SLSC
8	波崎SLSC

■ オーシャンウーマンリレー（女子）

順位	チーム名
1	館山SLSC
2	下田LSC
3	湯河原LSC
4	九十九里LSC
5	勝浦LSC
6	岩井LSC
7	和田浦LSC
8	新島LSC

チーム総合成績

順位	チーム	得点
1	下田LSC	115
2	西浜SLSC	86
3	館山SLSC	78
4	湯河原LSC	74
5	勝浦LSC	68
6	九十九里LSC	62
7	波崎SLSC	38
8	和田浦LSC	26
9	東京消防庁LSC	25
10	神津島LSC	22
11	飯岡LSC	21
12	新島LSC	20
13	土肥LSC	19
14	鹿嶋LGT	19
15	白浜LSC	18
16	岩井LSC	16
17	拓殖大学LSC	14
18	鴨川LSC	13
19	柏崎LSC	12
20	大洗SLSC	12
20	用宗LSC	12
22	愛知LSC	10
23	今井浜SLSC	9
24	銚子LSC	8
25	西伊豆LSC	8
26	大竹SLSC	8
27	湘南ひらつかLSC	7
28	式根島LSC	6
29	茅ヶ崎SLSC	5
29	御浜LSC	5
29	横浜海の公園LSC	5
29	大阪体育大学LSC	5
29	日本大学LSC	5
29	浜田LSC	5
29	熱川LSC	5
29	新潟青山LSC	5
29	三多摩LSC	5
29	鎌倉LG	5
29	成城学園LSC	5
40	昭和第一学園高等学校LSC	2

※チーム総合成績は、CPRコンテスト参加チームを集計対象とする。
※同得点チームの順位は上位入賞種目数の違いによる。

■ 競技結果

順位	チーム	得点
1	下田LSC	115
2	西浜SLSC	86
3	館山SLSC	78
4	湯河原LSC	74
5	勝浦LSC	68
6	九十九里LSC	62
7	波崎SLSC	38
8	和田浦LSC	26

■ CPRコンテスト　結果

チーム	評価
飯岡LSC	A
今井浜SLSC	A
大洗SLSC	A
大竹SLSC	A
勝浦LSC	A
白浜LSC	A
用宗LSC	A

▶ 第25回 全日本学生ライフセービング選手権大会

開催月日：2010年9月25日（土）・26日（日）　　開催場所：御宿海岸（千葉県御宿町）

個人種目

男子

■ オーシャンマン／オーシャンウーマン

順位	選手名	所属
1		
2		
3		
4	実施せず	
5		
6		
7		
8		

■ サーフスキーレース

順位	選手名	所属
1		
2		
3		
4	実施せず	
5		
6		
7		
8		

■ サーフレース

順位	選手名	所属
1	清水　雅也	拓殖大学
2	菅沼　寛也	法政大学
3	三木　翔平	神奈川大学
4	森田　一輝	青山学院大学
5	菊池　　光	日本大学
6	三上　耕平	日本大学
7	楠本　慶明	国際武道大学
8	西條　友昭	順天堂大学

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	所属
1	田中　翔太	国際武道大学
2	竹田　　敦	日本体育大学
3	松木　至竜	東海大学湘南校舎CREST
4	中村　幸世	順天堂大学
5	中村　　誠	国際武道大学
6	大石　崇文	日本大学
7	五十嵐大樹	国士舘大学
8	加藤　隆太	法政大学

■ ビーチスプリント

順位	選手名	所属
1	森谷　絢太	日本体育大学
2	五十嵐大樹	国士舘大学
3	大山　直樹	順天堂大学
4	田中　翔太	国際武道大学
5	三橋　　公	義国士舘大学
6	松本　大地	拓殖大学
7	八尾　善臣	日本大学
8	久　　源太	杏林大学

女子

■ オーシャンマン／オーシャンウーマン

順位	選手名	所属
1		
2		
3		
4	実施せず	
5		
6		
7		
8		

■ サーフスキーレース

順位	選手名	所属
1		
2		
3		
4	実施せず	
5		
6		
7		
8		

■ サーフレース

順位	選手名	所属
1	河崎　綾子	東海大学湘南校舎CREST
2	松澤みづほ	日本女子体育大学
3	栗真　千里	日本体育大学
4	篠岡　桂子	東海大学湘南校舎CREST
5	三井結里花	日本大学
6	名須川紗綾	文教大学
7	下山　愛由	日本体育大学
8	河野　希以	国士舘大学

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	所属
1	藤浪　優希	国際武道大学
2	渡嘉敷　萌	順天堂大学
3	黒川麻衣子	順天堂大学
4	細野　有希	日本体育大学
5	高橋　真梨	日本女子体育大学
6	高山あさな	日本体育大学
7	秋川知恵子	茨城大学
8	荒木　麻佑	大阪体育大学

■ ビーチスプリント

順位	選手名	所属
1	細野　有希	日本体育大学
2	高橋　沙恵	順天堂大学
3	渡嘉敷　萌	順天堂大学
4	高橋　真梨	日本女子体育大学
5	藤浪　優希	国際武道大学
6	梶谷　友恵	神奈川大学
7	秋川知恵子	茨城大学
8	岡島　美汐	東京女子体育大学

チーム種目

■ ボードリレー　（男子）

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	日本大学
3	日本体育大学
4	順天堂大学
5	東海大学湘南校舎CREST
6	専修大学
7	国士舘大学
8	杏林大学

■ ボードリレー　（女子）

順位	チーム名
1	日本女子体育大学
2	順天堂大学
3	東京女子体育大学
4	日本体育大学
5	国際武道大学
6	早稲田大学
7	東海大学湘南校舎CREST
8	成城学園

■ オーシャンマンリレー（男子）

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	日本体育大学
3	東海大学湘南校舎CREST
4	拓殖大学
5	順天堂大学
6	流通経済大学
7	神奈川大学
8	法政大学

■ オーシャンウーマンリレー（女子）

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本女子体育大学
3	東海大学湘南校舎CREST
4	順天堂大学
5	日本大学
6	拓殖大学
7	筑波大学

■ ボードレスキュー　（男子）

順位	チーム名
1	
2	
3	
4	実施せず
5	
6	
7	
8	

■ ボードレスキュー　（女子）

順位	チーム名
1	
2	
3	
4	実施せず
5	
6	
7	
8	

■ レスキューチューブレスキュー（男子）

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	順天堂大学
3	専修大学
4	国際武道大学
5	東海大学湘南校舎CREST
6	流通経済大学
7	国士舘大学
8	日本大学

■ レスキューチューブレスキュー（女子）

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本大学
3	日本女子体育大学
4	東京女子体育大学
5	東海大学湘南校舎CREST
6	順天堂大学
7	国士舘大学
8	大阪体育大学

■ ビーチリレー　（男子）

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	国士舘大学
3	順天堂大学
4	成蹊大学
5	早稲田大学
6	神奈川大学
7	筑波大学
8	茨城大学

■ ビーチリレー　（女子）

順位	チーム名
1	順天堂大学
2	日本女子体育大学
3	日本体育大学
4	国際武道大学
5	東京女子体育大学
6	杏林大学
7	筑波大学

■ 1kmx3ビーチランリレー（男子）

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	国士舘大学
3	国際武道大学
4	拓殖大学
5	流通経済大学
6	専修大学
7	大阪体育大学
8	法政大学

■ 1kmx3ビーチランリレー（女子）

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本女子体育大学
3	順天堂大学
4	成城学園
5	東京女子体育大学
6	杏林大学
7	国士舘大学
8	神奈川大学

■ 男子

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	60
2	国際武道大学	54
3	順天堂大学	39
4	国士舘大学	36
5	日本大学	28
6	拓殖大学	26
7	東海大学湘南校舎CREST	25
8	専修大学	17
9	神奈川大学	16
10	法政大学	15
11	流通経済大学	15
12	青山学院大学	13
13	早稲田大学	12
14	成蹊大学	10
15	筑波大学	10
16	茨城大学	9
17	立教大学	8
17	成城学園大学	8
17	武蔵大学	8
20	大阪体育大学	7
21	杏林大学	7
22	立命館大学	5
22	東洋大学	5
22	和光大学	5
22	新潟工科大学	5
22	中央大学	5
22	新潟産業大学	5
22	東京健康科学専門学校	5
22	文教大学	5
22	東海大学清水校舎LOCO	5
22	国学院大学	5
22	玉川大学	5
22	明治大学	5
22	中京大学	5
35	東京海洋大学	2
35	鳥取大学	2
35	千葉大学	2
35	愛知大学	2

■ 女子

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	64
2	順天堂大学	63
3	日本女子体育大学	59
4	東海大学湘南校舎CREST	30
5	東京女子体育大学	25
6	国際武道大学	23
7	日本大学	20
8	茨城大学	12
8	筑波大学	12
10	成城学園	11
11	杏林大学	11
12	文教大学	11
12	早稲田大学	11
14	国士舘大学	10
15	神奈川大学	9
16	拓殖大学	8
17	流通経済大学	8
17	青山学院大学	8
17	専修大学	8
20	大阪体育大学	7
21	城西国際大学	5
21	東京健康科学専門学校	5
21	東海大学清水校舎LOCO	5
21	実践女子大学	5
21	明治大学	5
21	立命館大学	5
21	玉川大学	5
21	和洋女子大学	5
21	武蔵丘短期大学	5
21	東京海洋大学	5
21	成蹊大学	5
21	千葉大学	5
21	法政大学	5
21	中京大学	5
35	東洋大学	2

※同得点チームの順位は上位入賞種目数の違いによる

■ CPRコンテスト　結果（男子）

チーム	評価
青山学院大学	A
茨城大学	A
国際武道大学	A
成城学園大学	A
筑波大学	A
日本体育大学	A
日本大学	A
武蔵大学	A
立教大学	A
早稲田大学	A

■ CPRコンテスト　結果（女子）

チーム	評価
青山学院大学	A
茨城大学	A
順天堂大学	A
専修大学	A
筑波大学	A
日本女子体育大学	A
文教大学	A
流通経済大学	A
早稲田大学	A

▶ 第2回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会 ～架け橋～

開催月日：2011年2月11日(金祝)・12日(土)　開催場所：古橋廣之進記念浜松市総合水泳場 ToBiO(静岡県浜松市)

個人種目競技結果

■ 200m障害物スイム

男子

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	菊地　光	日本大学	2:06.90
2	石川　直人	神奈川大学	2:08.38
3	中本　直也	拓殖大学	2:11.52
4	大出　旭	流通経済大学	2:11.99
5	佐口　太一	岐阜聖徳学園大学	2:12.26
6	澤田　翼	日本体育大学	2:15.02
7	佐藤光太郎	東海大学湘南校舎	2:17.22
8	矢内　健斗	日本大学	2:18.03

女子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	栗真　千里	日本体育大学	2:22.59	大会新
2	鈴木　聖美	日本大学	2:25.54	
3	下山　愛由	日本体育大学	2:27.03	
4	塩島沙稀子	国士舘大学	2:28.37	
5	三井結里花	日本大学	2:28.44	
6	三吉　菜月	大阪体育大学	2:29.26	
7	伊藤　安奈	日本大学	2:30.28	
8	越中　万智	和洋女子大学	2:30.74	

■ 50mマネキンキャリー

男子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	橋本　将吾	拓殖大学	34.95	大会新
2	中本　直也	拓殖大学	36.14	
3	楠本　慶明	国際武道大学	36.61	
4	澤田　翼	日本体育大学	36.73	
5	佐藤光太郎	東海大学湘南校舎	37.42	
6	星野　宗一	専修大学	37.87	
7	園田　俊	流通経済大学	38.38	
8	中嶋　拓人	日本体育大学	38.46	
8	坂本　類	早稲田大学	38.46	

女子

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	河崎　綾子	東海大学湘南校舎	43.45
2	名須川紗綾	文教大学	44.20
3	藤田　恵巳	日本女子体育大学	44.64
4	原田　香菜	日本女子体育大学	45.44
5	岡島　美汐	東京女子体育大学	45.66
6	國東　瑞紀	日本女子体育大学	45.70
7	原田　恵	早稲田大学	46.12
8	金坂　佳瑛	日本女子体育大学	46.99

■ 100mレスキューメドレー

男子

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	石川　直人	神奈川大学	1:13.03
2	園田　俊	流通経済大学	1:14.24
3	中山　直哉	早稲田大学	1:15.55
4	溝井　巧	日本大学	1:17.01
5	矢部翔太郎	東海大学湘南校舎	1:19.00
6	小山浩一郎	日本体育大学	1:19.00
7	高岡　洋介	国士舘大学	1:20.45
8	大嶋　康嗣	名古屋学院大学	1:21.05

女子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	佐伯　芽維	日本体育大学	1:20.35	大会新
2	栗真　千里	日本体育大学	1:23.94	
3	大渕真理子	日本女子体育大学	1:28.02	
4	金坂　佳瑛	日本女子体育大学	1:30.35	
5	鈴木　聖美	日本大学	1:30.51	
6	伊藤　実沙	大阪体育大学	1:31.95	
7	情野　望	日本女子体育大学	1:32.25	
8	木伏　紅緒	早稲田大学	1:34.59	

■ 100mマネキンキャリー・ウィズフィン

男子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	清水　雅也	拓殖大学	55.34	大会新
2	楠本　慶明	国際武道大学	56.07	
3	多田　創一	玉川大学	58.83	
4	大谷翔一郎	流通経済大学	59.23	
5	田中　裕介	拓殖大学	1:00.03	
6	櫻井　聖也	流通経済大学	1:00.56	
7	小山浩一郎	日本体育大学	1:02.11	
8	大塚　竜馬	日本体育大学	1:02.46	

女子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	神村　美咲	日本女子体育大学	1:09.31	大会新
2	大渕真理子	日本女子体育大学	1:09.58	
3	水間　菜登	国際武道大学	1:09.67	
4	水間　菜愉	国際武道大学	1:09.96	
4	藤田　恵巳	日本女子体育大学	1:09.96	
6	我妻　瑞穂	東京女子体育大学	1:13.72	
7	青田　薫枝	早稲田大学	1:13.85	
8	田中亜由美	日本体育大学	1:15.67	

■ 100mマネキントウ・ウィズフィン

男子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	西山　俊	東海大学湘南校舎	1:00.45	大会新
2	中野　達矢	日本体育大学	1:01.95	
3	岡田　悟	日本大学	1:03.82	
4	堤　勇樹	順天堂大学	1:04.44	
5	中根　和記	拓殖大学	1:04.50	
6	井口　裕太	日本体育大学	1:04.50	
7	飯田　純一	流通経済大学	1:04.55	
8	大谷翔一郎	流通経済大学	1:04.76	

女子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	水間　菜登	国際武道大学	1:07.07	日本新
2	水間　菜愉	国際武道大学	1:08.94	大会新
3	原田　香菜	日本女子体育大学	1:11.04	
4	田中亜由美	日本体育大学	1:11.96	
5	篠岡　桂子	東海大学湘南校舎	1:12.73	
6	宮田　沙依	日本体育大学	1:12.78	
7	森　真奈	日本体育大学	1:13.09	
8	神戸　彩	日本体育大学	1:15.54	

■ 200mスーパーライフセーバー

男子

順位	氏名	クラブ名	タイム	
1	清水　雅也	拓殖大学	2:31.06	大会新
2	菅沼　寛也	法政大学	2:37.88	
3	中野　達矢	日本体育大学	2:38.62	
4	中根　和記	拓殖大学	2:39.02	
5	矢部翔太郎	東海大学湘南校舎	2:40.19	
6	菊地　光	日本大学	2:41.68	
7	大出　旭	流通経済大学	2:46.96	
8	吉野　一平	流通経済大学	2:47.24	

女子

順位	氏名	クラブ名	タイム
1	宮田　沙依	日本体育大学	2:55.15
2	下山　愛由	日本体育大学	2:57.44
3	三井結里花	日本大学	2:57.87
4	伊藤　実沙	大阪体育大学	3:05.58
5	松澤みづほ	日本女子体育大学	3:07.09
6	藤井　香織	神奈川大学	3:08.19
7	木伏　紅緒	早稲田大学	3:10.50
8	上村　真央	拓殖大学	3:12.44

チーム種目競技結果

■ 4 ×50m障害物リレー

順位	クラブ名	タイム
1	拓殖大学	1:49.94
2	日本大学	1:50.19
3	日本体育大学	1:50.33
4	東海大学湘南校舎	1:50.48
5	早稲田大学	1:52.06
6	法政大学	1:55.01
7	国際武道大学	1:55.82
8	専修大学	1:56.01

順位	クラブ名	タイム	
1	日本大学	2:04.77	大会新
2	日本体育大学	2:04.95	大会新
3	日本女子体育大学	2:09.93	
4	東京女子体育大学	2:12.47	
5	東海大学湘南校舎	2:14.85	
6	大阪体育大学	2:16.93	
7	国際武道大学	2:17.21	
8	早稲田大学	2:18.33	

■ 4 ×25mマネキンリレー

順位	クラブ名	タイム	
1	拓殖大学	1:21.98	大会新
2	日本大学	1:24.44	大会新
3	日本体育大学	1:25.58	大会新
4	東海大学湘南校舎	1:27.84	
5	流通経済大学	1:33.72	
6	大阪体育大学	1:46.62	
7	明治大学	1:46.66	
8	玉川大学	1:47.24	

順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	1:40.90
2	日本大学	1:41.35
3	日本女子体育大学	1:48.44
4	東京女子体育大学	1:54.16
5	専修大学	1:59.19
6	東海大学湘南校舎	2:05.09
7	早稲田大学	2:13.20

■ 4 ×50mメドレーリレー

順位	クラブ名	タイム
1	拓殖大学	1:38.90
2	東海大学湘南校舎	1:39.35
3	日本大学	1:39.41
4	流通経済大学	1:41.23
5	大阪体育大学	1:42.30
6	日本体育大学	1:43.89
7	専修大学	1:45.35
8	国士舘大学	1:45.49

順位	クラブ名	タイム
1	日本大学	1:54.60
2	国際武道大学	1:54.76
3	日本女子体育大学	1:57.13
4	日本体育大学	1:58.02
5	大阪体育大学	1:59.47
6	東京女子体育大学	1:59.67
7	東海大学湘南校舎	2:01.38
8	拓殖大学	2:05.67

■ ラインスロー

順位	クラブ名	タイム	
1	日本体育大学	11.75	大会新
2	拓殖大学	14.23	
3	東海大学清水校舎	16.54	
4	中京大学	16.63	
5	日本大学	19.38	
6	専修大学	20.77	
7	東海大学湘南校舎	26.67	
8	玉川大学	27.18	

順位	クラブ名	タイム	
1	大阪体育大学	14.17	大会新
2	日本女子体育大学	15.65	大会新
3	早稲田大学	20.71	
4	東京健康科学専門学校	21.36	
5	筑波大学	22.84	
6	日本体育大学	26.95	
7	流通経済大学	32.07	
8	神奈川大学	36.75	

特別種目

■ メドレーリレー　（男子）

順位	クラブ名	タイム
1	拓殖大学	1:39.39
2	日本体育大学	1:39.88
3	東海大学湘南校舎	1:40.26
4	玉川大学	1:42.79
5	大阪体育大学	1:43.18
6	早稲田大学	1:43.48
7	国際武道大学	1:43.70
8	流通経済大学	1:45.17

（女子）

順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	1:53.00
2	日本大学	1:55.80
3	日本女子体育大学	1:56.51
4	国際武道大学	1:58.85
5	東海大学湘南校舎	1:58.99
6	東京女子体育大学	2:00.77
7	大阪体育大学	2:01.41
8	早稲田大学	2:05.64

※4×50mメドレーリレーについては、表彰・総合得点集計の対象外

チーム総合成績

（男子）

順位	クラブ名	得点
1	拓殖大学	65
2	日本体育大学	54
3	日本大学	40
4	東海大学湘南校舎	40
5	流通経済大学	28
6	国際武道大学	17
7	神奈川大学	15
8	早稲田大学	14
9	玉川大学	13
10	法政大学	10
11	大阪体育大学	7
12	専修大学	7
13	東海大学清水校舎	6
14	順天堂大学	5
14	中京大学	5
16	岐阜聖徳学園大学	4
17	国士舘大学	2
17	明治大学	2

順位	クラブ名	得点
19	名古屋学院大学	1
20	文教大学	0
20	東京健康科学専門学校	0
20	筑波大学	0
20	茨城大学	0
20	成蹊大学	0
20	成城大学	0
20	帝京大学	0
20	東京海洋大学	0
20	新潟産業大学	0
20	琉球大学	0
20	東洋大学	0
20	新潟医療福祉大学	0
20	新潟工科大学	0

（女子）

順位	クラブ名	得点
1	日本体育大学	56
2	日本女子体育大学	55
3	日本大学	39
4	大阪体育大学	24
5	東海大学湘南校舎	23
6	国際武道大学	21
7	東京女子体育大学	20
8	早稲田大学	17
9	文教大学	7
10	国士舘大学	5
10	東京健康科学専門学校	5
12	専修大学	4
12	筑波大学	4
14	神奈川大学	4
15	流通経済大学	2
16	拓殖大学	1
16	和洋女子大学	1

順位	クラブ名	得点
18	玉川大学	0
18	法政大学	0
18	東海大学清水校舎	0
18	順天堂大学	0
18	中京大学	0
18	茨城大学	0
18	成蹊大学	0
18	成城大学	0
18	帝京大学	0
18	東京海洋大学	0
18	新潟産業大学	0
18	琉球大学	0
18	実践女子大学	0
18	実践女子大学	0

※同得点チームの順位は上位入賞種目数の違いによる

—日本代表大会結果—

▶ 第5回 三洋物産インターナショナル ライフセービングカップ2010

開催月日：2010年9月5日（日）　　開催場所：白良浜海水浴場（和歌山県白浜町）

■ 日本代表選手団

役職	氏名	
監督	入谷　拓哉	競技力強化委員
コーチ	青木　克浩	競技力強化委員
コーチ	佐藤文机子	競技力強化委員
トレーナー	笠原　政志	コンディショニング科学委員
トレーナー	砂川　憲彦	コンディショニング科学委員

	氏名	所属
A代表	飯沼　誠司	館山SLSC
	植木　将人	西浜SLSC
	清水　雅也	拓殖大学LSC
	長竹　康介	西浜SLSC
	西山　　俊	東海大学湘南校舎LSC/湯河原LSC
	山本　晴基	館山SLSC
	伊藤　彩香	九十九里LSC
	勝俣　　閑	西浜SLSC
	花岡　香那	館山SLSC
	藤原　　梢	湘南ひらつかLSC
	毛利　　邦	館山SLSC
	遊佐　雅美	西浜SLSC

	氏名	所属
B代表	伊藤　俊輔	館山SLSC
	小出　大祐	鴨川LSC
	篠田　智哉	勝浦LSC
	菅沼　寛也	法政大学SLSC/下田LSC
	田中　翔太	国際武道大学LSC/勝浦LSC
	古金　源太	日本体育大学LSC/神津島LSC
	加藤みづき	新島LSC
	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC/湯河原LSC
	神戸　友美	土肥LSC
	小松崎あゆみ	下田LSC
	佐伯　芽維	日本体育大学LSC/白浜LSC
	三木　玲奈	湯河原LSC

Female

■ 01 Beach Sprint

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	607	Chanel	Hickman	シャネル　ヒックマン	NZL
2	212	Hayley	WYPER	ハイリー　ワイパー	AUS
3	708	Vanessa	BEAUDRY	ヴァネッサ　ボードリー	CAN
4	110	Kozue	FUJIWARA	藤原　　梢	JPN-A
5	409	Charnia	KIRK	カーニァ　カーク	GBR
6	307	Brianne	JACKOLSKI	ブライアン　ジャコルスキー	USA
7	812	Tomomi	KANBE	神戸　友美	JPN-B
8	510	CHUN WAI GLORIA	MA	チュン　ワイ　グロリア　マー	HKG

■ 03 Surf Teams Race

Place	Team
1	Australia
2	United States of America
3	New Zealand
4	Japan A
5	Japan B
6	Great Britain
7	Hong Kong China
8	Canada

■ 05 Board Race

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	609	Katrina	Madill	カトリーナ　マディル	NZL
2	210	Bonnie	HANCOCK	ボニー　ハンコック	AUS
3	208	Harriet	BROWN	ハリエット　ブラウン	AUS
4	608	Madison	Boon	マディソン　ブーン	NZL
5	412	Sara	ROWE	サラ　ロー	GBR
6	108	Shizuka	KATSUMATA	勝俣　　閑	JPN-A
7	311	Alison	RIDDLE	アリソン　リドル	USA
8	808	Ayako	KAWASAKI	河崎　綾子	JPN-B
9	407	Holly	HAWKEY	ホーリー　ホウキー	GBR
10	107	Ayaka	ITO	伊藤　彩香	JPN-A
11	312	Taylor	SPIVEY	テイラー　スパイヴィー	USA
12	809	Ayumi	KOMATSUZAKI	小松崎あゆみ	JPN-B
13	507	HOCK WING WINNIE	WONG	ホッ　ウィン　ウィニー　ウォン	HKG
14	707	Marie-Helene	PAQUETTE	マリー　エレーヌ　パケット	CAN
15	508	MIE WAH	YUNG	ミ　ワー　ユン	HKG
16	711	Emilie	CHAMBERLAND	エミリー　チャンバーランド	CAN

■ 07 Beach Relay

Place	Team
1	Japan A
2	New Zealand
3	United States of America
4	Great Britain
5	Canada
6	Australia
7	Japan B
8	Hong Kong China

Male

■ 02 Beach Sprint

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	203	Ben	MISPELHORN	ベン　ミスペルホーン	AUS
2	303	Brian	COSTELLO	ブライアン　コステロ	USA
3	603	Toby	Harris	トビー　ハリス	NZL
4	404	Samuel	MOORE	サミュエル　ムーア	GBR
5	102	Masato	UEKI	植木　将人	JPN-A
6	806	Syota	TANAKA	田中　翔太	JPN-B
7	503	KAI LAI	YUEN	カイ　ライ　ユン	HKG
8	702	Christopher	GOULET	クリストファー　グーレット	CAN

■ 04 Surf Teams Race

Place	Team
1	Australia
2	New Zealand
3	Japan B
4	Japan A
5	United States of America
6	Great Britain
7	Canada
8	Hong Kong China

■ 06 Board Race

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	202	Ali	DAY	アリ　デイ	AUS
2	601	Mike	Janes	マイク　ジェーンズ	NZL
3	406	Daniel	HUMBLE	ダニエル　ハンブル	GBR
4	304	Brian	MURPHY	ブライアン　マーフィー	USA
5	206	Michael	BOOTH	マイケル　ブース	AUS
6	604	Cory	Taylor	コーリー　テイラー	NZL
7	306	Anthony	VELA	アンソニー　ヴェラ	USA
8	104	Kousuke	NAGATAKE	長竹　康介	JPN-A
9	105	Shun	NISHIYAMA	西山　　俊	JPN-A
10	804	Tomoya	SHINODA	篠田　智哉	JPN-B
11	401	Nicholas	THOMAS	ニコラス　トーマス	GBR
12	802	Daisuke	KOIDE	小出　大祐	JPN-B
13	501	KIN LEUNG	LEE	キン　リュン　リー	HKG
14	505	KIN CHUNG TONY	LEE	キン　チュン　トニー　リー	HKG
15	706	Brent	MCLEOD	グレント　マクレオド	CAN
16	705	Simon	FORTIER-ST-PIERRE	サイモンフォルティエールサンピエール	CAN

■ 08 Beach Relay

Place	Team
1	United States of America
2	Great Britain
3	Australia
4	Japan A
5	Japan B
6	New Zealand
7	Canada
8	Hong Kong China

Female

09 Oceanwoman

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	210	Bonnie	HANCOCK	ボニー　ハンコック	AUS
2	608	Madison	Boon	マディソン　ブーン	NZL
3	808	Ayako	KAWASAKI	河崎　綾子	JPN-B
4	107	Ayaka	ITO	伊藤　彩香	JPN-A
5	311	Alison	RIDDLE	アリソン　リドル	USA
6	407	Holly	HAWKEY	ホーリー　ホウキー	GBR
7	509	KING YAN	LI	キン　ヤン　リ	HKG
8	711	Emilie	CHAMBERLAND	エミリー　チャンバーランド	CAN

11 Oceanwoman Relay

Place	Team
1	Australia
2	New Zealand
3	United States of America
4	Great Britain
5	Japan A
6	Hong Kong China
7	Canada
8	—

13 Beach Flags

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	607	Chanel	Hickman	シャネル　ヒックマン	NZL
2	110	Kozue	FUJIWARA	藤原　　梢	JPN-A
3	212	Hayley	WYPER	ハイリー　ワイパー	AUS
4	112	Masami	YUSA	遊佐　雅美	JPN-A
5	708	Vanessa	BEAUDRY	ヴァネッサ　ボードリー	CAN
6	709	Catherine	DANIEL-HOULE	キャサリン　ダニエル　フール	CAN
7	812	Tomomi	KANBE	神戸　友美	JPN-B
8	409	Charnia	KIRK	カーニァ　カーク	GBR
9	307	Brianne	JACKOLSKI	ブライアン　ジャコルスキー	USA
10	510	CHUN WAI GLORIA	MA	チュン　ワイ　グロリア　マー	HKG
11	509	KING YAN	LI	キン　ヤン　リ	HKG
12	609	Katrina	Madill	カトリーナ　マディル	NZL
13	807	Mizuki	KATO	加藤　みづき	JPN-B
14	209	Devon	HALLIGAN	デボン　ハリガン	AUS
15	412	Sara	ROWE	サラ　ロー	GBR
16	310	Molly	MILITELLO	モーリー　ミリテロ	USA

15 Board Rescue

Place	Team
1	Australia
2	Japan A
3	New Zealand
4	United States of America
5	Great Britain
6	Japan B
7	Canada
8	Hong Kong China

17 Rescue Tube Rescue

Place	Team
1	United States of America
2	Australia
3	Japan A
4	New Zealand
5	Japan B
6	Great Britain
7	Hong Kong China
8	Canada

Male

10 Oceanman

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	202	Ali	DAY	アリ　デイ	AUS
2	601	Mike	Janes	マイク　ジェーンズ	NZL
3	104	Kousuke	NAGATAKE	長竹　康介	JPN-A
4	302	Micah	CARLSON	マイカ　カールソン	USA
5	406	Daniel	HUMBLE	ダニエル　ハンブル	GBR
6	801	Shunsuke	ITO	伊藤　俊輔	JPN-B
7	501	KIN LEUNG	LEE	キン　リュン　リー	HKG
8	706	Brent	MCLEOD	グレント　マクレオド	CAN

12 Oceanman Relay

Place	Team
1	Australia
2	New Zealand
3	Great Britain
4	Japan A
5	Japan B
6	United States of America
7	Hong Kong China
8	Canada

14 Beach Flags

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	102	Masato	UEKI	植木　将人	JPN-A
2	402	Warren	TRESTRAIL	ウォーレン　トレイストレイル	GBR
3	603	Toby	Harris	トビー　ハリス	NZL
4	303	Brian	COSTELLO	ブライアン　コステロ	USA
5	203	Ben	MISPELHORN	ベン　ミスペルホーン	AUS
6	802	Daisuke	KOIDE	小出　大祐	JPN-B
7	305	Garrett	THIBODEAU	ギャレット　ティボデュー	USA
8	404	Samuel	MOORE	サミュエル　ムーア	GBR
9	506	HONG YI	LI	ホン　イ　リ	HKG
10	702	Christopher	GOULET	クリストファー　グーレット	CAN
11	206	Michael	BOOTH	マイケル　ブース	AUS
12	806	Syota	TANAKA	田中　翔太	
13	503	KAI LAI	YUEN	カイ　ライ　ユン	HKG
14	604	Cory	Taylor	コーリー　テイラー	NZL
15	103	Masaya	SHIMIZU	清水　雅也	JPN-A
16	701	Gaetan	NORMANDIN	ゲータン　ノルマンディン	CAN

16 Board Rescue

Place	Team
1	Australia
2	New Zealand
3	United States of America
4	Great Britain
5	Japan A
6	Japan B
7	Hong Kong China
8	Canada

18 Rescue Tube Rescue

Place	Team
1	New Zealand
2	Australia
3	Great Britain
4	United States of America
5	Japan A
6	Japan B
7	Hong Kong China
8	Canada

OVERALL COMPETITION　RESULT

Place	Team	Point
1	Australia	403
2	New Zealand	384
3	Japan A	326
4	United States of America	315
5	Great Britain	296
6	Japan B	229
7	Canada	180
8	Hong Kong China	171

▶ インターナショナル・サーフ・レスキュー・チャレンジ2011

主　催：Surf Life Saving New Zealand　開催場所：Mount Manganui Beach ,Tauranga , New Zealand
参加国：オーストラリア、イギリス、ニュージーランド、アメリカ、南アフリカ、カナダ、日本
開催日：01/31（大会１回目）　02/02（大会2回目）　02/04（大会3回目）
02/05（選抜戦1回目）　02/06（選抜戦2回目）

■ 日本代表選手団

役職	氏名	
監督	入谷　拓哉	競技力強化委員
コーチ	佐藤文机子	競技力強化委員
トレーナー	小粥　智浩	コンディショニング科学委員
通訳	西嶋　智美	国際委員
総務	川地　政夫	事務局

	氏名	所属
選手	落合　慶二	東京消防庁LSC/横浜海の公園LSC
	清水　雅也	拓殖大学LSC
	菅沼　寛也	法政大学SLSC/下田LSC
	田中　翔太	国際武道大学LSC/勝浦LSC
	西山　　俊	東海大学湘南校舎LSC/湯河原LSC
	菊地　　光	日本大学SLSC/九十九里LSC
	河崎　綾子	東海大学湘南校舎LSC/湯河原LSC
	小松崎あゆみ	下田LSC
	藤浪　優希	国際武道大学LSC/勝浦LSC
	水間　菜登	国際武道大学LSC/勝浦LSC
	毛利　　邦	館山SLSC
	森山　　瞳	青山学院大学LSC/波崎SLSC

■ 順位（3日分）

種目	1日目	順位	2日目	順位	3日目	順位
オーシャンウーマン	河崎　綾子	10位	河崎　綾子	11位	河崎　綾子	11位
	森山　　瞳	11位	森山　　瞳	10位	森山　　瞳	10位
オーシャンマン	西山　　俊	10位	西山　　俊	10位	西山　　俊	10位
	菅沼　寛也	12位	菅沼　寛也	9位	菅沼　寛也	11位
サーフレース　女	毛利　　邦	10位	毛利　　邦	9位	毛利　　邦	9位
	水間　菜登	11位	水間　菜登	11位	水間　菜登	10位
サーフレース　男	清水　雅也	11位	清水　雅也	7位	清水　雅也	7位
	菊地　　光	10位	菊地　　光	9位	菊地　　光	9位
ミックスボードリレー	落合・河崎	5位	森山・落合	6位	森山・落合	5位
ミックススキーリレー	落合・小松崎	7位	小松崎・落合	6位	小松崎・落合	6位
ビーチフラッグス　女	藤波　優希	6位	藤波　優希	4位	藤波　優希	4位
ビーチフラッグス　男	田中　翔太	5位	田中　翔太	5位	田中　翔太	5位
サーフチーム	毛利　　邦	21位	毛利　　邦	24位	毛利　　邦	21位
	水間　菜登	20位	水間　菜登	23位	水間　菜登	20位
	清水　雅也	11位	清水　雅也	14位	清水　雅也	9位
	菅沼　寛也	14位	菅沼　寛也	10位	菅沼　寛也	11位
サーフスキー　女	小松崎あゆみ	11位	小松崎あゆみ	12位	小松崎あゆみ	9位
	河崎　綾子	DQ	河崎　綾子	13位	河崎　綾子	11位
サーフスキー　男	西山　　俊	10位	西山　　俊	7位	西山　　俊	12位
	落合　慶二	11位	落合　慶二	11位	落合　慶二	11位
ボードレース　女	河崎　綾子	10位	森山　　瞳	8位	森山　　瞳	9位
	水間　菜登	9位	水間　菜登	10位	水間　菜登	10位
ボードレース　男	西山　　俊	12位	西山　　俊	10位	西山　　俊	9位
	菊地　　光	10位	菊地　　光	11位	菊地　　光	13位
ビーチスプリント　女	藤波　優希	7位	藤波　優希	6位	藤波　優希	7位
ビーチスプリント　男	田中　翔太	5位	田中　翔太	5位	田中　翔太	6位
チューブレスキュー　女	河崎・毛利・小松崎・藤波	5位	河崎・毛利・小松崎・藤波	4位	河崎・毛利・小松崎・藤波	5位
チューブレスキュー　男	清水・菅沼・菊地・田中	5位	清水・菅沼・菊地・田中	5位	清水・菅沼・菊地・田中	5位
ビーチリレー　女	森山・水間・小松崎・藤波	5位	森山・水間・小松崎・藤波	6位	森山・水間・小松崎・藤波	5位
ビーチリレー　男	西山・菅沼・落合・田中	6位	西山・菅沼・落合・田中	6位	西山・菅沼・落合・田中	6位
ボードレスキュー　女	河崎・森山	5位	河崎・森山	5位	河崎・森山	5位
ボードレスキュー　男	西山・菊地	6位	西山・菊地	4位	西山・菊地	6位
オーシャンウーマンリレー	毛利・森山・小松崎・藤波	5位	毛利・森山・小松崎・藤波	5位	毛利・森山・小松崎・藤波	5位
オーシャンマンリレー	菊地・菅沼・落合・田中	6位	菊地・菅沼・落合・田中	6位	菊地・菅沼・落合・田中	6位

■ 国別総合順位

1日目			2日目			3日目		
順位	国名	ポイント	順位	国名ポイント	順位	国名	ポイント	順位
1位	Australia	112	1位	Australia	106	1位	Australia	109
2位	New Zealand	94	2位	New Zealand	100	2位	New Zealand	98
3位	Japan	53	3位	Japan	57	3位	Japan	57
4位	Canada	43	4位	Great Britain/France	46	4位	Great Britain/France	40
5位	Great Britain/France	41	5位	Canada	33	5位	Canada	35

総合順位		
順位	国名	ポイント
1位	Australia	327
2位	New Zealand	292
3位	Japan	167
4位	Great Britain/France	127
5位	Canada	111

※オーストラリアとニュージーランドのBチームは順位に含まれず。

メディア一覧

Media List

▶ 新聞

地域新聞社	記事・水辺の事故を防ぐには	7月
共同通信社	図解・ライフセービング	7月配信
朝日小学生新聞	防げ、水の事故・海編	7月20日
伊勢新聞	ウォーター講習（愛知LSC）	6月27日
中日新聞	ウォーター講習（愛知LSC）	6月27日
盛岡タイムス	盛岡LSC	8月17日
朝日新聞	人物紹介・飯沼誠司選手	8月21日
岩手日報	盛岡LSC	8月24日
デイリースポーツ	三洋カップ2010	9月 6日
日刊スポーツ	三洋カップ2010	9月 6日
中日スポーツ	三洋カップ2010	9月 6日
スポーツ報知	三洋カップ2010	9月 6日
スポニチ	三洋カップ2010	9月 8日
朝日新聞（東北版）	盛岡LSC	10月15日
朝日新聞	全日本選手権	10月31日

▶ 雑誌/書籍

WEDGE	連載·あの負けがあってこそ／北矢宗志選手	6月号
週刊女性	連載·人間ドキュメント／小峯力理事長	8月号
なるほど·ザ·インフォ	ライフセービング競技紹介	6月号
進研ゼミ小学４年生	わくわく発見ブック／お仕事紹介	6月号
スイミングライフ	学生プール選手権	6月号
ビーチマガジン	人物紹介／遊佐雅美選手	7月号
ぐるっと千葉	学生選手権	9月号
FUTURE DESIGN	レジャーのための安全・安心	7月号
健康づくり	人物紹介／飯沼誠司選手	8月号
月刊「潮」	人間ドキュメント／遊佐雅美選手	11月号

▶ TV

NHK横浜放送局	全日本プール選手権	5月15日
CATV下田	種目別選手権	6月 8日
NHK教育	天才れてび君／ライフセービング部	4月～6月
NHK教育	できた・できた・できた	7月
NHK携帯ワンセグ2	ワンセグランチボックス／飯沼誠司選手	6月
テレビ神奈川	ニュース／海開き・三浦海岸LSC	7月 1日
フジテレビ	ニュース／海開き・三浦海岸LSC	7月20日
フジテレビ	スーパーニュース／三浦海岸LSC	*
NHK	スポーツ大陸／植木将人選手	9月25日
BS朝日	日本代表／飯沼誠司選手	10月31日

▶ ラジオ

NACK５	海の安全10か条	7月19日

注）上記一覧は、JLA本部対応および各クラブからの報告に基づいたものです。

岐阜新聞　2010年7月25日版

朝日小学生新聞　2010年7月20日版

朝日新聞　2010年10月31日版

盛岡タイムス　2010年8月17日版

朝日新聞　2010年10月15日版

パートナーシップ一覧

Partnership List

日本財団
◇ライフセービング活動器材配備助成
◇ジュニア・ライフセービング活動支援助成

独立行政法人日本スポーツ振興センター
◇ジュニア・ライフセービング競技会
（スポーツ振興くじ助成事業）

第一三共株式会社
◇全日本選手権大会（特別協賛）

森永製菓株式会社
◇監視救助等活動支援（協賛）
◇ウイダーinゼリー全国提供（協力）

株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
◇インターナショナルライフセービングカップ
（特別協賛）
◇日本代表国際大会派遣支援（協賛）
◇日本代表強化支援（協賛）
◇日本代表強化指定大会支援（協賛）

レールダル メディカル ジャパン株式会社
◇全日本選手権大会（協賛）
◇全日本プール選手権大会（協賛）
◇心肺蘇生法資格認定事業支援（協力）

株式会社オッシュマンズ・ジャパン
◇全日本選手権大会（協賛）
◇全日本学生選手権大会（協賛）

株式会社ゴールドウイン
◇監視救助等活動支援（協力）
◇日本代表国際大会派遣支援（協力）

ミズノ株式会社
◇日本代表国際大会派遣支援（協力）

日本製粉株式会社
◇ジュニア・ライフセービング競技会（協力）

クロックスジャパン合同会社
◇日本代表国際大会派遣支援（協力）

株式会社櫻井興業GUARD事業部
◇日本代表国際大会派遣支援（協力）
◇全日本選手権大会（協力）

エジプト航空
◇日本代表国際大会派遣支援（協力）

株式会社日本航空
◇インターナショナルライフセービングカップ（協力）

サントリー食品株式会社
◇インターナショナルライフセービングカップ（協力）

明石被服興業株式会社
◇安全関連商品認定支援（協力）
◇ウォータースポーツプロジェクト支援（協力）

※五十音順

明石被服興業株式会社

エジプト航空

株式会社オッシュマンズ・ジャパン

クロックスジャパン合同会社

株式会社ゴールドウイン

株式会社櫻井興業GUARD事業部

サントリー食品株式会社

株式会社三洋物産
株式会社三洋販売

第一三共株式会社

株式会社日本航空

日本財団

独立行政法人
日本スポーツ振興センター

日本製粉株式会社

ミズノ株式会社

森永製菓株式会社

レールダル メディカル ジャパン株式会社

■ 参考文献

日本ライフセービング協会（編）
「サーフライフセービング教本」大修館書店2009

日本ライフセービング協会（編）
「心肺蘇生法教本」大修館書店2009

■ 発行

2011年5月21日発行
特定非営利活動法人日本ライフセービング協会
〒105-0013　東京都港区浜松町2-1-18　トップスビル
TEL：03-3459-1445　FAX：03-3459-1446
http://www.jla.gr.jp